

市町村名	北中城村
------	------

**令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	1-①	あやかりの杜滞在型施設活用事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

**事業内容**  
長期滞在型宿泊施設やキャンプ場等がある「あやかりの杜」を活用し、野外活動や沖縄の自然や伝統文化の学習等を実施する。

**効果発現年度**  
 当年度       後年度(      年度)

**実施方法**  
 直接実施       委託       補助       負担       その他(      )

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	5,000	5,000	6,041	4,000	5,000
	(b) 予算現額	5,000	5,000	6,041	4,000	5,091
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	91
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	5,000	5,000	6,041	4,000	5,091
	B. 執行済額	4,993	4,998	6,039	3,999	5,091
	うち交付金充当額	3,994	3,998	4,831	3,199	4,073
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	・91千円の増額については、委託料の精算によるものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況			
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	・体験交流事業	目標	( 16事業 )	( 21事業 )	( 15事業 )
実績		17事業	21事業	22事業	17事業
	目標	(            )	(            )	(            )	(            )
	実績				
達成状況説明	・地域団体や企業等の協力により目標である17事業を開催することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		・体験交流人数	目標	(            )	( 620人 )	( 390人 )	( 500人 )
	実績			521人	400人	607人	
		目標	(            )	(            )	(            )	(            )	(            )
実績							
進捗状況説明	・リピーターの多い事業の講座回数を調整し、参加者数を確保する取り組みを実施したことにより目標人数を達成することができた。						

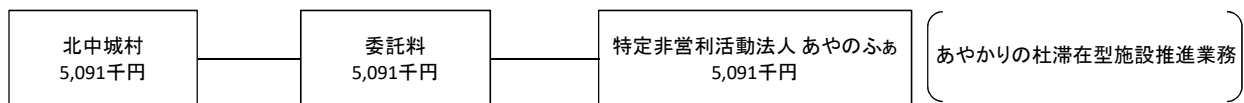
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年注目されている内容の新規講座を開催することにより受講人数増加に取組んだことが、村内外の多くの受講生に対して本施設を活用した体験交流を提供することができた要因になったと考える。</li> <li>・野外で行う講座について、悪天候の際の対応を検討し、安全対策を講ずる必要がある。</li> <li>・村外利用者については増加傾向にあるものの、県外利用者数は伸び悩んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、受講人数の確保に向けた取り組みを検討するとともに、集客施設に宣伝広告等を設置することで、講座に対する興味・関心の拡大を図る。</li> <li>・安全面に関して講師との打ち合わせを密に行い、万全の体制で講座を行える環境を整える。</li> <li>・県外の来客者に対する周知方法に限界があるため、本村民泊団体と連携を取ることで本施設の利用を促したり、宿泊者に対する体験講座を開くなどの取り組みが必要である。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・引き続き、SNSやHP等を活用した情報発信に努めるとともに、村外、県外の来客者が多い商業施設や宿泊施設へのチラシ設置を行う。
- ・村内にある民泊団体と連携して、修学旅行生を対象とした体験講座の実施を検討する。
- ・本村民泊団体と連携体制を構築し、宿泊者に対する体験講座の実施等を検討することで、県外来客者に対する沖縄の自然や伝統文化等を活用した観光誘客に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,091	5,091	4,073	1,018	0



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、施設の指定管理者であり、当該施設に熟知していることを勧奨した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費用や使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

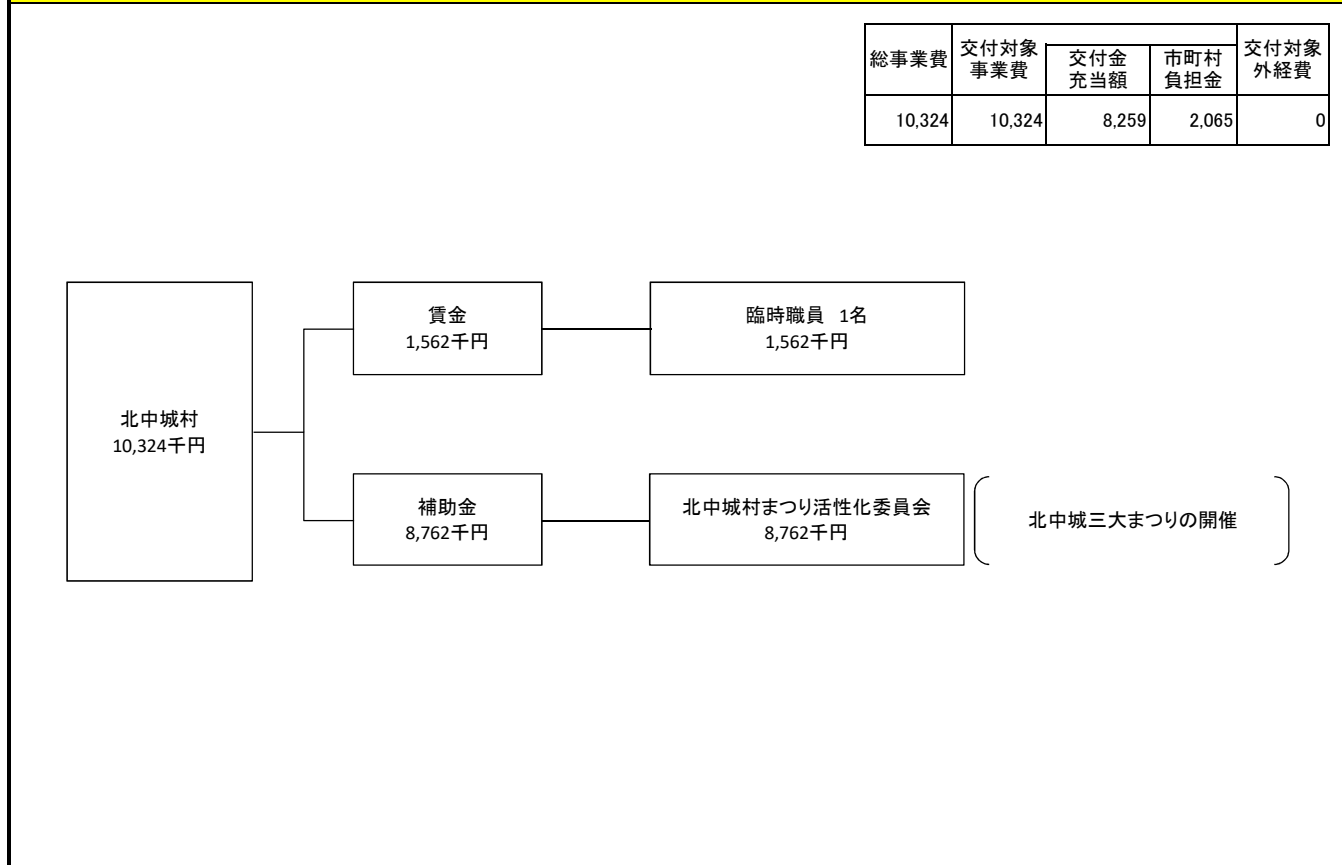
市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②		北中城まつり活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
	担当部課名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)
事業内容		観光誘客を図るため、伝統芸能プログラムを中心とした夏の「青年エイサー」、秋の「北中城しおさいまつり」、沖縄の温暖な気候を活かした冬場の「ひまわりin北中城」を開催する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	18,817	21,241	24,141	11,657	16,533
		(b) 予算現額	18,000	21,241	24,141	12,719	16,533
		(c) 増減額(b-a)	▲ 817	0	0	1,062	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		18,000	21,241	24,141	12,719	16,533
	B. 執行済額		15,141	21,095	22,484	12,066	10,324
	うち交付金充当額		12,113	16,876	17,986	9,652	8,259
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		84.1%	99.3%	93.1%	94.9%	62.4%
予算の状況の説明		<p>・不用額6,209千円については、しおさいまつりが、1日開催になったことと、ひまわりの発育不良のため、ひまわりIN北中城が中止となったことによる補助金の減によるものである。</p> <p>・今後、まつりの財源確保に苦慮することが想定される中、まつり活性化委員会から1日開催の提案がでたこともあり、実証実験的な意味も含めて、1日開催の場合の集客がどれくらいになるのかを検証した。</p> <p>・しおさいまつりが1日開催になったことによる財源で、ひまわりまつりの内容を充実させる予定だった。</p>					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	・北中城村三大まつりの開催支援	目標	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	( )	
		実績	開催支援	開催支援	開催支援		
		目標	( )	( )	( )	( )	
実績							
達成状況説明	<p>・青年エイサーまつり(9/1)・しおさいまつり(10/13)は予定通り開催し、計画通りの支援を行うことができたが、ひまわりIN北中城に関しては、ひまわりの発育状況が悪く、開催中止となった。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	・青年エイサーまつり来場者数	目標	( )	( 6,600 )	( 7,000 )	( )	( )
		実績		13,740	6,250		
	・しおさいまつり来場者数	目標	( )	( 22,700 )	( 24,000 )	( )	( )
		実績		9,160	17,570		
	・ひまわりまつり来場者数	目標	( )	( 48,300 )	( 52,100 )	( )	( )
実績			49,000	中止			
進捗状況説明	<p>・青年エイサーまつりについては、臨場感のあるエイサー演舞を見ることができるドーム型の会場(若松公園)に開催場所を変更したことで、来場客の誘客を図ることができ、目標は概ね達成することができた。</p> <p>・北中城しおさいまつりについては、村の魅力を発信するため、伝統芸能を中心としたプログラムを構成し、SNSなどで広く周知することで、成果目標を概ね達成することができた。</p> <p>・ひまわりIN北中城は、天候不良によりひまわりの発育状況が悪く、R2.2.12開催のまつり活性化委委員会で中止が決まったため、変更申請にも間に合わず、目標を達成することができなかった。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(青年エイサーまつり) ・エイサーを演舞する青年会からまつりの別途開催を希望する声があったため、単独開催とした。また、来場客に臨場感を感じてもらうために会場を若松公園に変更して開催したが、駐車場がなく、シャトルバスの運行も不十分だったため、会場までのアクセス向上について検討する必要がある。	(青年エイサーまつり) ・若松公園は、演舞場所がドーム型となっており、来場者からも中城跡より観やすいとの意見が多かったため、次回開催も若松公園を検討し、駐車場の確保やシャトルバスの運行数増を図る。
	(北中城しおさいまつり) ・村の魅力を発信するため、伝統芸能を中心としたプログラム内容によりまつりを開催したが、村外からの来場者に毎年来場してもらえるようなイベント内容を検討する必要がある。	(北中城しおさいまつり) ・本村の伝統芸能に興味を持ってもらい、毎年まつりに来てもらえるよう、伝統芸能の説明や体験イベント等、まつり内容について検討し、来場客の増加を図る。
	(ひまわりIN北中城) ・様々な品種のひまわりを植えたこと、各オーナー区画の手入れの状況の違い、雨が少なかったことなどによる影響で、ひまわりの発育状況に大きなばらつきがあり、ひまわりIN北中城は中止となった。種植えの時期、ひまわりの品種を検討する必要がある。	(ひまわりIN北中城) ・種植えの時期、ひまわりの品種、オーナー区画数、雨が長期間降らなかった際の対策について検討し、2月頃にひまわりIN北中城が開催できるように調整を行う。

**今後の取り組み方針**

- ・新型コロナウイルスの影響により、R2年度の北中城三大まつりはすべて中止となる見込み。
- 収束後(R3年度以降)
  - ・青年エイサーまつりについて、来場するための交通手段を検討し、老若男女だれもが来場しやすい、誘客効果のあるまつりの開催に取り組む。
  - ・北中城しおさいまつりについて、イベント内容を検討し、来場客の増加が期待できるように見直しを行う。
  - ・オーナー制度、ひまわりの品種、種植え時期を見直し、冬にひまわりが満開に咲き、イベントが開催できるように取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



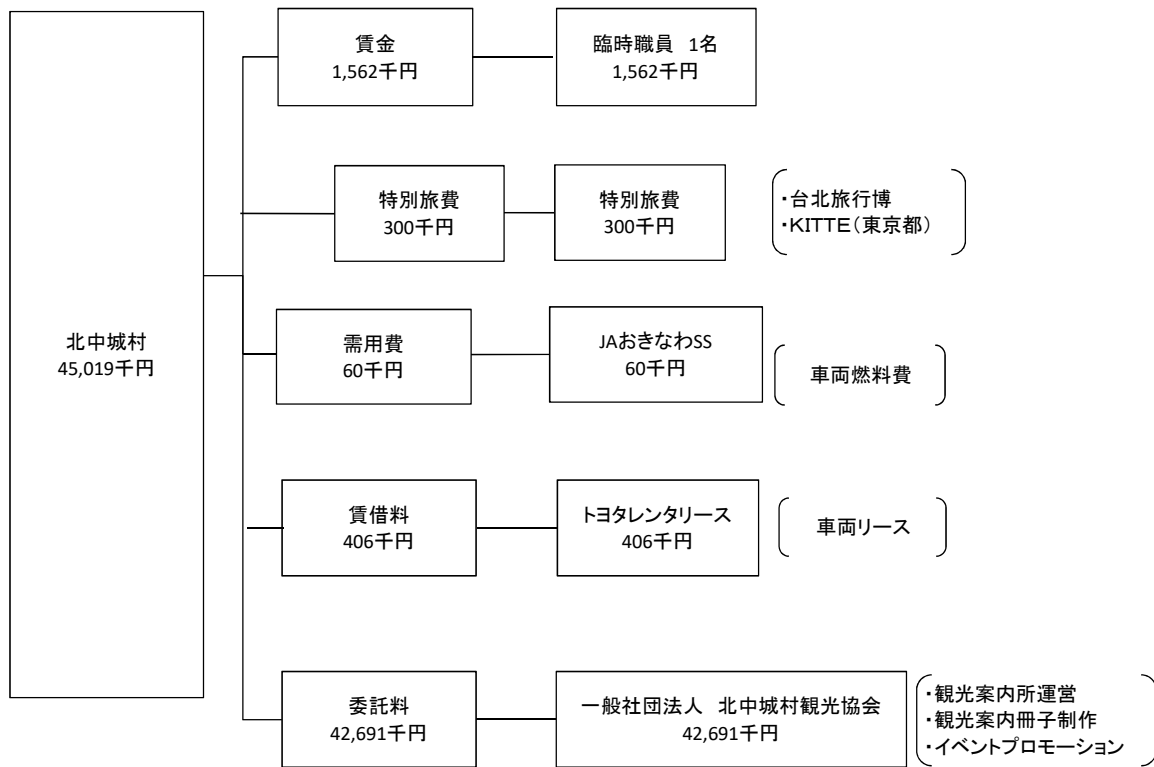
	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助先のまつり活性化委員会は、村内各種団体で構成され、まつりを主催することから、妥当であったと判断する。</li> <li>・まつりの日程が短縮・中止になったことによる事業費の減額が発生したものの、精算により補助額を減額することで事業内容に見合った支出となっている。</li> <li>・まつり総事業費の10%を同委員会で負担しており、補助要綱に則り妥当であったと判断する。</li> <li>・費目・使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③		観光誘客プロモーション事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
	担当部課名	企画振興課		事業実施(予定)年度		平成26～令和3年度	観光客の受入体制の整備
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	村内への観光誘客を図るため、多言語による観光案内や観光イベントでのプロモーションを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,132	22,200	53,100	44,531	46,307
		(b) 予算現額	12,054	24,354	52,532	44,531	46,307
		(c) 増減額(b-a)	▲78	2,154	▲568	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		12,054	24,354	52,532	44,531	46,307
	B. 執行済額		12,041	23,813	48,698	43,951	45,019
	うち交付金充当額		9,632	19,050	38,958	35,160	36,015
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.9%	97.8%	92.7%	98.7%	97.2%
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・多言語観光案内業務の実施	目標	( 3人 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	3人	実施	実施	実施	
	・観光イベントでのプロモーション	目標	( 1回 )	( 国内:2回 国外:2回 )	( 国内:2回 国外:2回 )	( 国内:1回 国外:1回 )	
		実績	2回	国内:2回 国外:2回	国内:2回 国外:2回	国内:2回 国外:1回	
	・TVプロモーション	目標	( )	( )	( )	( 実施 )	
実績					実施		
達成状況説明	・多言語による観光案内業務を通年を通して実施できた。 ・県外(東京・大阪)、国外(台湾)において、北中城村のブースを設置し、プロモーション活動を実施した。 ・村内観光施設や食事処をめぐるTV番組を作成し、民放3社で放映を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	・村内観光入込客数	目標	( )	( 699万人 )	( )	( )	( )
		実績		16.6万人			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	・R1年度の成果目標については、「北中城村観光情報インフラ整備事業推進計画(H28年度策定)」においてモバイル空間統計による観光入込客数を設定していたが、入込客数の根拠となるモバイル空間統計を取得する際、データ購入費や解析に多額の費用を要するため、観光情報インフラ整備委員会の意見を踏まえ、北中城村観光情報インフラ整備事業によるWiFiアクセス数と中城城跡の来場者数の合計を村内観光入込客数として計上した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果目標の設定後に、観光情報インフラ整備委員会において、達成状況の見直し案がでており、R1年度は、成果目標の数値を算出することができなかったため、財源に左右されない、成果目標を設定する必要がある。</li> <li>・村内観光施設や食事処をめぐるTV番組を作成し民放3社で放映したが、放送直後に新型コロナウイルス感染症が拡大し、観光客の受け入れに影響が生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ購入の必要としない方法での成果目標の設定を検討する。</li> <li>・作成した村内観光施設や食事処のTV番組(PR動画)を活用した継続的な情報発信に取り組むことで、観光客誘客を強化する必要がある。</li> </ul>
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度は、ツーリズムEXPOジャパンが沖縄で開催されるため、ツーリズムへ参加する人数を増やし、積極的に、PRできるように努める。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響による観光入込客の減少が懸念されるため、SNSやYouTube等を活用したメディアプロモーションを継続的に行うことで、収束後の観光客誘客に取り組む。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
45,019	45,019	36,015	9,004	0



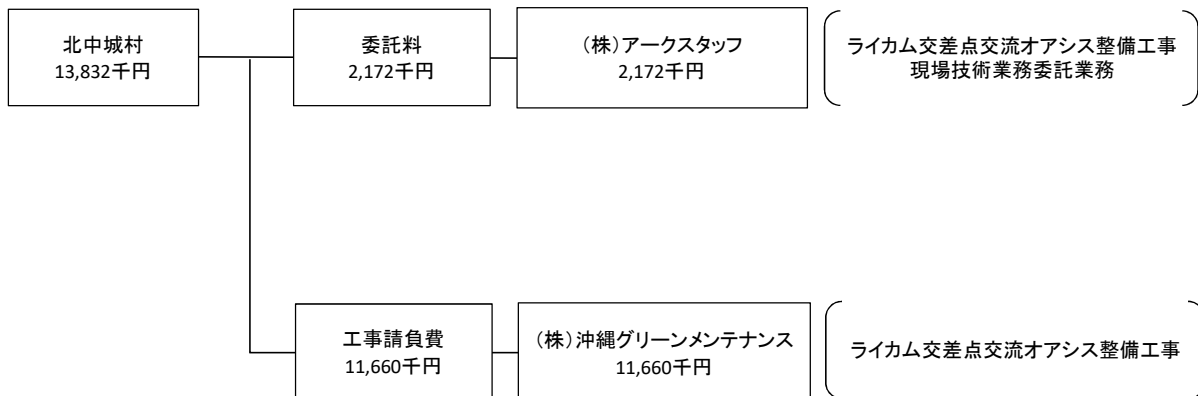
資金の流 れ、 点検 評価 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業者は、村内事業所等との連携が不可欠であり公共性が求められることから、村観光協会が妥当であったと判断する。</li> <li>・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。</li> <li>・費目・用途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	1-⑤		ライカム交差点交流オアシス整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ						
	担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度		平成28～令和1年度	観光客の受入体制の整備					
事業内容		北中城村の魅力を発信するような景観形成を図るため、米軍により返還されたアワセゴルフ場地区の玄関口となるライカム交差点の道路残地を活用した交流スペースの整備を行う。										
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(2年度)											
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		
		(a) 当初予算額	3,134		6,550		6,378		13,816			
		(b) 予算現額	3,024		6,232		23,145		13,866			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 110		▲ 318		16,767		50			
		(d) 繰越額	-		-		-		-			
	A. 計(b+d)		3,024		6,232		23,145		13,866			
	B. 執行済額		3,024		6,232		21,949		13,832			
	うち交付金充当額		2,419		4,985		17,559		11,065			
	次年度繰越額		0		0		0		0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%		100.0%		94.8%		99.8%			
予算の状況の説明		・工事費に要する費用50千円を増額補正したが、計画通り事業を執行した。										
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況									
			H30年度		R1年度		R2年度		R3年度			
	・植栽、人工芝の設置		目標	( 設置 )	( 設置 )	( )	( )					
			実績	設置	設置							
	・誘導サイン等の設置		目標	( 実施 )	( 設置 )	( )	( )					
		実績	実施	設置								
達成状況説明	・過年度に策定した実施設計に基づき、誘導サイン等を設置することができた。また、植栽、人工芝についても、植付予定範囲に設置したことで、すべての整備を計画通り完了させることができた。											
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R2年度)					
	・交流スペースの整備完了		目標	( )	( 13基 )	( 整備完了 )	( )	( )				
			実績		13基	整備完了						
	【R2成果目標】 ・魅力的な景観形成が図られたかを含め、アンケート調査により、本事業のあり方について検証する		目標	( )	( )	( )	( )	( 80%以上 )				
			実績									
進捗状況説明	・過年度に策定した実施計画を基に、計画通り交流スペースの整備を完了させたことで、成果目標を達成することができた。											

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備工事の完了により、今後は多くの来村者や地域住民に対して交流スペースを活用してもらうよう周知を図る必要がある。</li> <li>魅力ある景観を維持するために、整備した交流スペースの適切な維持管理に努める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流スペースの周知を図るため、村ホームページや広報等を活用した周知に努める。</li> <li>定期的に除草や清掃作業を実施することにより、適切な維持管理に努め、魅力ある景観形成に努める。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は村ホームページや広報等で本施設の周知を行うとともに、イベント等での活用検討を図る。</li> <li>イベント等が実施される際や、村ホームページにおいて、アンケート調査を実施し、魅力ある景観が形成されているか検証する。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,832	13,832	11,065	2,767	0



資金の 使途の 流れ 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託業者は、指名競争入札により選定したため、妥当であったと考える。</li> <li>不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。</li> <li>費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



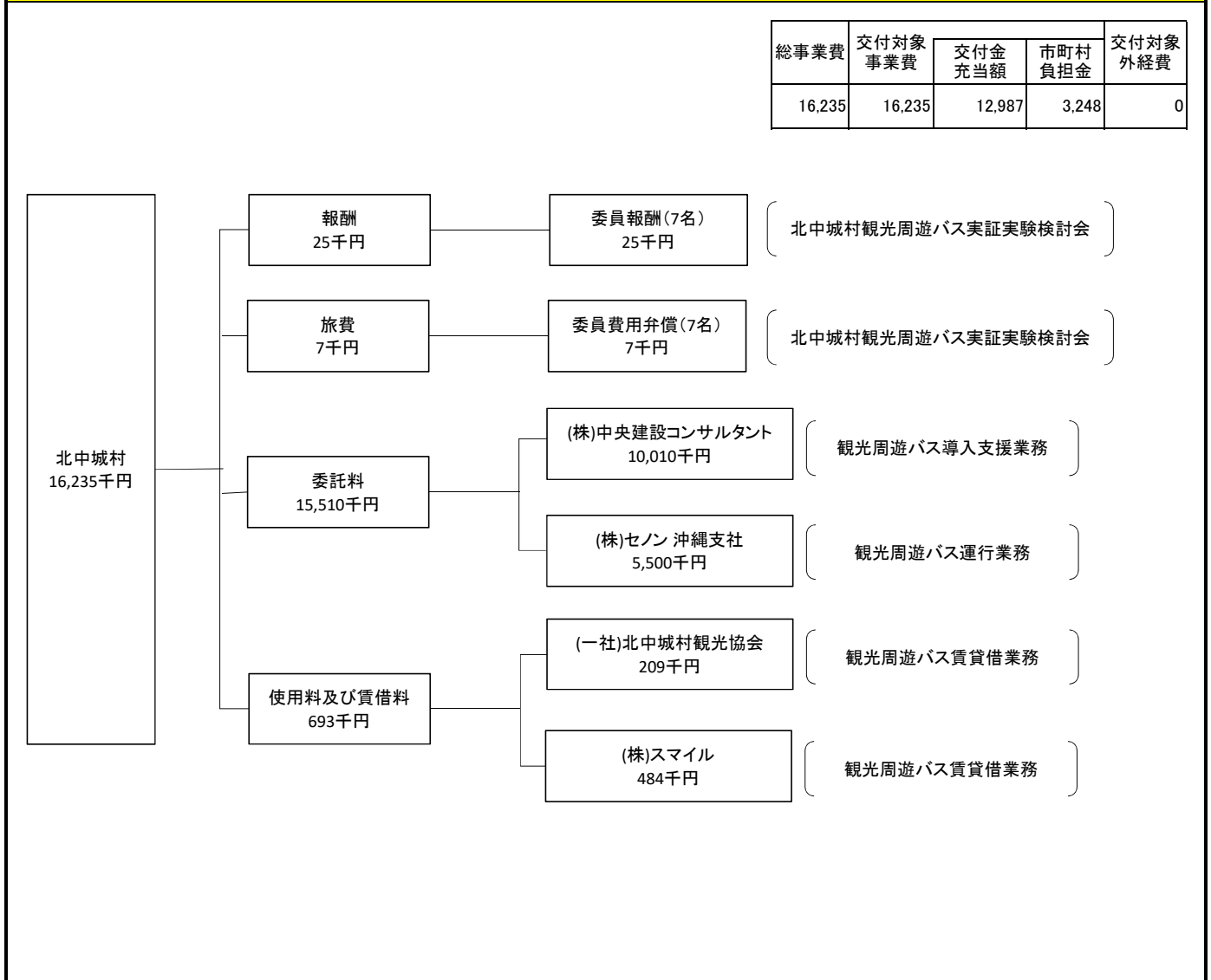
市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥		観光周遊バス実証事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
	担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度		平成30～令和3年度	観光客の受入体制の整備
事業内容		村内への観光誘客を図るため、大型商業施設と世界遺産中城城跡を結ぶ周遊バスの実証実験を行う。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	5,505	17,094			
	(b) 予算現額	5,301	16,790				
	(c) 増減額(b-a)	▲ 204	▲ 304				
	(d) 繰越額	-	-				
	A. 計(b+d)	5,301	16,790				
	B. 執行済額	5,253	16,235				
	うち交付金充当額	4,202	12,987				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	99.1%	96.7%				
予算の状況の説明		・不用額304千円については、周遊バス運行委託料の精算によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	・実証実験に向けた準備	目標	( 実証事業に向けた検討完了 )	( 準備完了 )	(      )	(      )	
		実績	実証実験に向けた検討完了	準備完了			
	・実証実験(無償)の開始	目標	(      )	( 開始 )	(      )	(      )	
実績			R1.11.25運行開始				
達成状況説明	<p>・実証実験に向けた準備として、バス停の製作や警察及び道路管理者との協議、ホームページやチラシ、広報等による事前周知に取り組むことで、計画的に準備することができた。</p> <p>・実証実験の開始時期については、当初、11月1日を予定していた。しかし、使用する車両の賃貸借契約が入札不調となるなど、不測の事態が発生したため、開始が11月25日となったが、大幅な延期とはならず目標を概ね達成することができた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
			(      )	( 実証事業準備の完了 )	( 10,800人 )	(      )	(      )
	・観光周遊バス利用者数	実績		実証事業準備の完了	2,345人		
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
	実績						
進捗状況説明	<p>・利用者数は目標値の22%となっており、目標を達成することができなかった。</p> <p>・年度終盤の2月～3月にかけては、新型コロナウイルス感染拡大による観光客の減少も少なからず影響していると考えられる。</p> <p>・利便性向上を図るためバス位置情報システムを導入したが、利用が23%程度と低く、システム自体を知らない利用者も多くいたことがアンケート調査で判明した。同システムの幅広い周知など、バスの利用しやすい環境をつくることが急務と考える。</p> <p>・地域アンケート調査では、約60%が運行していることを知らないことから、地域での認知度を高めることで、地域住民を通じた情報発信を強化する必要がある。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス位置情報システムを導入し利便性向上を図ったが、利用率が低く、同システムを知らない利用者も多いことが課題である。</li> <li>・バスの利便性向上を図るため、上記システムだけでなく、多様な情報発信に取り組む必要がある。</li> <li>・体験型観光のひとつとして、観光客と地域住民が触れ合えるよう、地域での認知度を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス位置情報システムの配信等の利便性向上の取組みについて、利用者が簡単に情報を入手できる取組みが必要である。</li> <li>・検索エンジンを活用した情報発信に取り組む必要がある。</li> <li>・頻繁に地域住民の目に触れるよう、周知広報に努める必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・チラシ等でバス位置情報システムに関する情報等を掲載し、観光施設等へ配布することで、バスの利便性向上に取り組む。
- ・検索エンジンを活用した経路案内表示に取り組む。
- ・ホームページや広報誌の活用や村観光協会と連携することで、幅広い周知に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



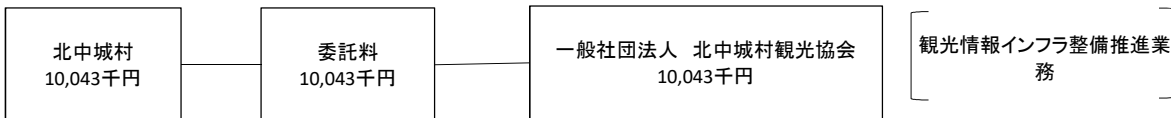
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託業者及び賃貸借業者は、指名競争入札やプロポーザル等で選定しており、妥当であったと考える。</li> <li>・不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であったと考える。</li> <li>・費目及び使途については、業務完了時に検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	観光情報インフラ整備推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成28～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	村内を訪れる観光客の情報収集を図る利便性を高め、観光基盤を強化し、観光誘客を図るため、情報アクセスポイントの運営並びにビッグデータの分析を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	18,023	24,728	9,944	10,129	
		(b) 予算現額	18,023	23,739	9,944	10,129	
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 989	0	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	18,023	23,739	9,944	10,129	
	B. 執行済額		17,659	23,684	7,927	10,043	
	うち交付金充当額		14,127	18,947	6,341	8,034	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		98.0%	99.8%	79.7%	99.2%	
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・観光情報アクセスポイントの運営	目標	( 実施 )	(            )	(            )	(            )	
		実績	実施				
	・ビッグデータ取得及び分析	目標	( 実施 )	(            )	(            )	(            )	
実績		未実施					
達成状況説明	・村内の公共施設や観光施設、飲食店等に設置している公衆無線LANの管理や新規施設への設置を実施した。 ・ビッグデータ取得及び分析については観光情報インフラ整備委員会において事業見直しの検討がされたことから、未実施となった。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	・村内観光入込客数	目標	(            )	( 699万人 )	(            )	(            )	(            )
		実績		16.6万人			
		目標	(            )	(            )	(            )	(            )	(            )
		実績					
進捗状況説明	・R1年度の成果目標については、「北中城村観光情報インフラ整備事業推進計画(H28年度策定)」においてモバイル空間統計による観光入込客数を設定していたが、入込客数の根拠となるモバイル空間統計を取得する際、データ購入費や解析に多額の費用を要するため、観光情報インフラ整備委員会の意見を踏まえ、北中城村観光情報インフラ整備事業によるWiFiアクセス数と中城城跡の来場者数の合計を村内観光入込客数として計上した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村内の主要な観光施設等へ設置した公衆無線LANが順調に稼働しているが、一部店舗等では、既存の無線LANと干渉するため撤去依頼がある。</li> <li>・ビッグデータ取得は取得費用が高額であるため、別の手法により効果検証に必要な情報の取得及び観光分析を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、公衆無線LAN等のアクセスポイントを運営し、利便性向上について検証することで、村内を訪れる観光客等の利便性向上を図り、観光誘客に務める。</li> <li>・Wi-Fiアクセスポイント等から得られるデータを活用した国内観光分析やインバウンド観光分析について検討する必要がある。</li> </ul>
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、ポータルサイトの利便性向上を図り、村内観光動向の把握と観光サービスの向上に取り組む。</li> <li>・Wi-Fiアクセスポイントから得られるデータを活用し、国内観光分析やインバウンド観光分析に取り組む。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
10,043	10,043	8,034	2,009	



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業者は、村内観光施設や店舗等との連携が不可欠であり、公共性が求められることから、妥当であると判断する。</li> <li>・予算規模は、業者見積もりを踏まえ設定しており、適正な規模であると判断する。</li> <li>・Wi-Fi設置店等については、回線費を店舗等が負担しており、負担関係は妥当であると判断する。</li> <li>・費目・使途については、精算段階で検査をしており、目的に即し必要なものであると判断する。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

**令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	1-⑧	リュウキュウマツ保全事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成28～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				花と緑あふれる県土の形成
				Ⅲ-1-(1)

**事業内容**  
北中城村の景観・美観を創出・継承するため、県木であるリュウキュウマツの計画的な薬液樹幹注入及び伐倒処分を実施する。

**効果発現年度**  
 当年度       後年度(      年度)

**実施方法**  
 直接実施       委託       補助       負担       その他(      )

		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	5,867	5,940	5,700	1,800	
	(b) 予算現額	5,867	5,940	5,301	1,898	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 399	98	
	(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)	5,867	5,940	5,301	1,898	
	B. 執行済額	5,829	5,940	5,301	1,898	
	うち交付金充当額	4,663	4,752	4,240	1,518	
	次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	・98千円の増額については、委託料の精算によるものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
		・被害木の伐倒駆除	目標	( 5本 )	( 5本 )	( )
	実績	15本	7本			
	目標	( )	( )	( )	( )	
	実績					
達成状況説明	・被害木の増加により想定していた本数以上の枯れマツを伐倒したことにより、被害拡大の抑制に努めた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)	
		目標	( )	( 90% )	( )	( )	( )
		実績		89.3%			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
	実績						
進捗状況説明	・活動目標以上の枯れマツを伐倒することができ、被害拡大の抑制に努めた結果、総本数945本、健全木844本の割合が89.3%となり、成果目標を概ね達成することができた。						

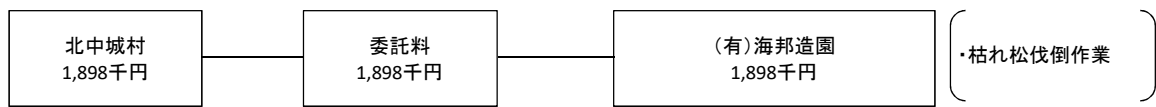
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>健全木の保全に取り組んでいるものの、松くい虫被害は増加しており、被害木が増加している。</li> <li>被害木については、公園や人通りが多い箇所等を考慮し、優先箇所を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き松くい虫の被害状況の把握及び健全木への薬剤注入を実施することで、松くい虫被害の抑制を図り、被害木を伐倒することで予防達成率を満たすように努める。</li> <li>計画的な被害木の伐倒を行い、景観保全を図る。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 健全木の被害状況を調査し、分布マップの更新に取り組む。
- 公園や村道等の被害木の伐倒を優先的に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
1,898	1,898	1,518	380	



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。</li> <li>不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。</li> <li>費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	2-①		アワセゴルフ場地区歴史・まちづくり映像保存事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア
	担当部署名	建設課		事業実施(予定)年度		平成24～令和2年度
事業内容		駐留軍用地「アワセゴルフ場」の返還合意から土地利用に至るまでの過程を歴史文化として継承するため、映像記録及び編集を実施する。				
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(3年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	1,020	1,000	1,100	1,000
	(b) 予算現額	1,020	1,000	1,050	1,000	1,074
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 50	0	0
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	1,020	1,000	1,050	1,000	1,074
	B. 執行済額	992	996	1,050	998	1,074
	うち交付金充当額	794	796	839	798	859
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	97.3%	99.6%	100.0%	99.8%	100.0%
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・記録映像の撮影時間	目標	( 3時間 )	( 3時間 )	( 3時間 )	( 3時間 )
		実績	3時間	3時間	3時間	3時間
	目標	( )	( )	( )	( )	
	実績					
達成状況説明	・返還跡地におけるまちづくりを実施するにあたり、アワセゴルフ場跡地での自然環境保全処置の取組や防災への取組、また区画整理事業を計画するにあたり、地権者との取組、手法について目標となる3時間の撮影を実施することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)
		目標	( )	( 86% )	( 78% )	( 89% )
	実績		67%	78%	89%	
	【R3成果目標】 村HP年間アクセス数	目標	( )	( )	( )	( )
実績						
進捗状況説明	・開発だけでなく自然環境及び生活環境の保全にも考慮した事業であること、開発後の地区内における災害に強いまちづくりを目指すため、官民一体の防災への取組状況を撮影することで、計画通り事業を実施することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・これまでは、返還から現在までのまちの変化を地上撮影により記録していたが、土地区画整理事業が完了し、多くの建築物が立ち並んでいる本地区の現状を一目で確認できる撮影手法を検討する必要がある。</p>	<p>・返還前の状況から現在の跡地利用の変化がより明確に記録できるように上空撮影手法の導入を検討する。</p>

**今後の取り組み方針**

・次年度は事業最終年度となることから、土地区画整理事業組合の解散式の地上撮影に加え、駐留軍用地から新たなまちへ変化した現状について上空撮影を検討する。また、過年度までに撮影した記録映像を抜粋し、総集編として記録映像を取りまとめ、1ヶ月に約3000件のホームページ閲覧実績がある村観光ポータルサイト(きたぽ)へ映像記録のリンクバナーを設けることを検討し、成果目標のアクセス数以上を目指すことで、当該事業についてより多くの方に周知ができるよう取組を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,074	1,074	859	215	0



資金の 使途の 流れ 点検 評価 ・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託業者は随意契約により選定しているが、実績を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。</p> <p>・不用額はなく、適正な規模であったと考える。</p> <p>・費用や使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



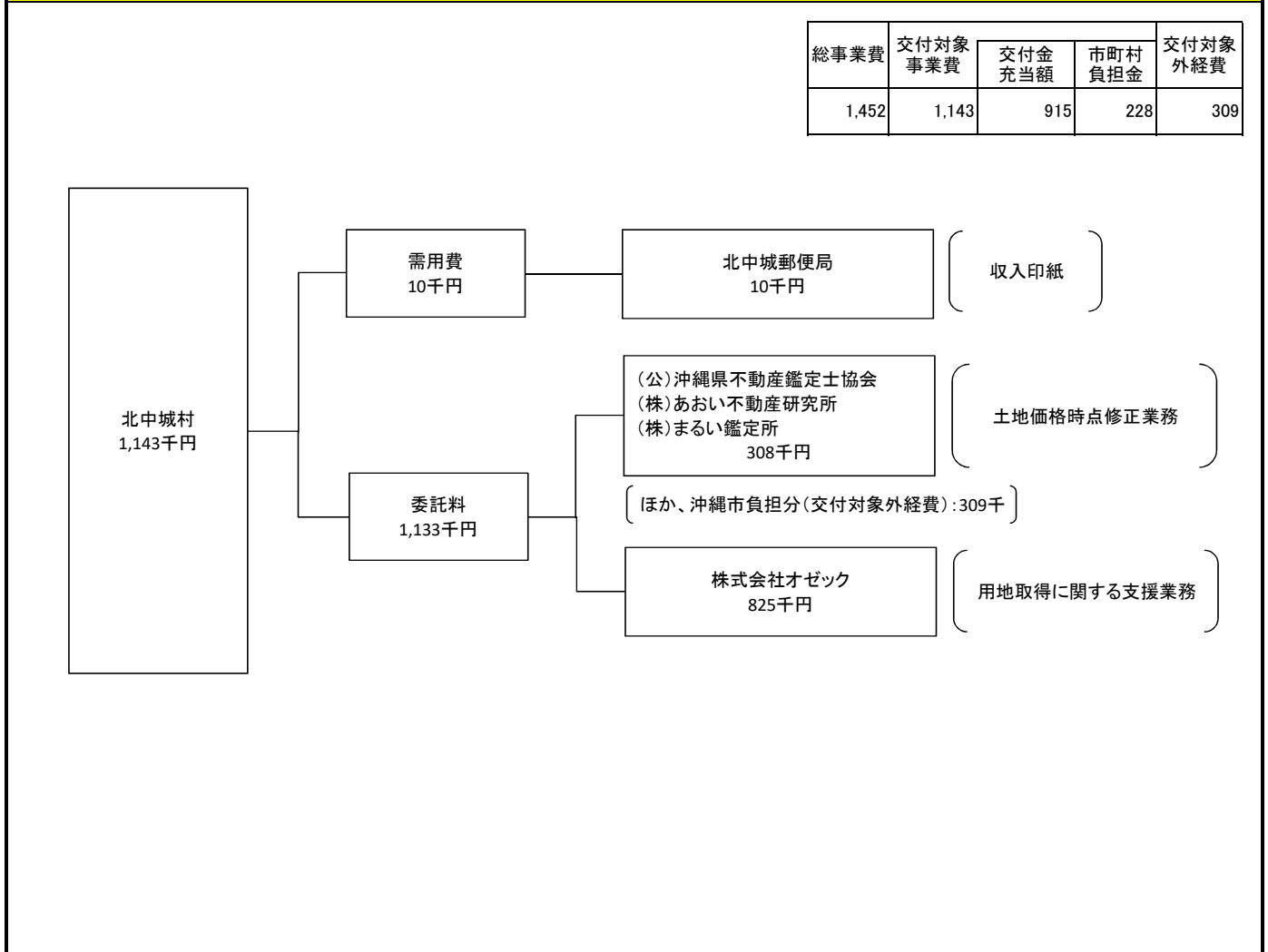
市町村名		北中城村				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	2-②		キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア
	担当部課名	企画振興課		事業実施(予定)年度		平成25～令和3年度
事業内容	キャンプ瑞慶覧ロウワープラザ地区の跡地利用を推進するため、これまで積み立てた基金を活用し公有地の先行取得を行う。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	117,400	3,000	3,372	2,537
	(b) 予算現額	236,614	2,894	3,702	653	1,144
	(c) 増減額(b-a)	119,214	▲106	330	▲1,884	▲566
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	236,614	2,894	3,702	653	1,144
	B. 執行済額	236,604	2,688	3,701	652	1,143
	うち交付金充当額	189,283	2,150	2,960	521	915
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	99.9%	92.9%	100.0%	99.8%	99.9%
予算の状況の説明	・公有地の先行取得に向けて申出者を募った結果、予定より少ない申出数であったため、買取交渉等に係る委託料△516千円及び収入印紙代△50千円を減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・公共用地の取得	目標	( 2,894㎡ )	( 2,679㎡ )	( 1,206㎡ )	( 902㎡ )
		実績	215㎡	1,473㎡	0㎡	900㎡
	目標	( )	( )	( )	( )	
	実績					
達成状況説明	・買取申出期間を5月～6月末まで2ヶ月設け、申出者を募った結果、申出希望が1件あり、買取協議も円滑に進んだことにより、900㎡(1筆)の用地取得ができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		目標	( )	( 100% )	( 100% )	( 83.6% )
	実績		87.3%	87.3%	83.6%	
	目標	( )	( )	( )	( )	( )
実績						
進捗状況説明	・申出のあった土地について、地権者の希望により分筆による土地の一部の買取協議となったが、申出段階から地権者へ、分筆等に係る事務手続きについて説明を行うことにより、計画どおりに買取を実施することができた。 ・昨年度より取得目標面積を11,000㎡追加したことにより、昨年度と比較して取得率が減少しているものの、計画どおり、取得目標面積11,000㎡に対して、9,194㎡(取得率83.6%)の用地を取得しており目標を達成している。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申出期間を2ヶ月設け周知に努めた結果、申出希望が1筆となったものの、税制優遇措置や、分筆に係る事務手続き等の情報提供を適宜行うことで、買取協議を円滑に進めることができたため、計画通りに用地取得ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行取得制度における5,000万円控除の優遇措置等のメリットや分筆等による手続きに時間を要する場合は、地権者等に対し、早い段階での情報提供等を行うことで、円滑な事業の実施に努める必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・引き続き2ヶ月の申出期間を設け、本事業の概要や進捗、メリット等の情報発信を行うことで、先行取得への理解醸成に取り組む。
- ・年内での所有権移転登記を完了するため、関係機関(沖縄防衛局、国税事務所)との協議を早期から取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、本事業の仕様に対応できる要件等を有しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・用地取得支援業務の委託事業者については、指名競争入札により選定しており妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。

市町村名	北中城村
------	------

**令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	3-①	雇用サポートセンター事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	雇用機会の創出・拡大と求職者支援
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-2

**事業内容**  
地域に密着した就業支援を行うことで雇用機会の創出を図るため、雇用サポートセンターを設置する。

**効果発現年度**  
 当年度       後年度(      年度)

**実施方法**  
 直接実施       委託       補助       負担       その他(      )

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	4,595	4,214	5,012	4,135	2,540
		(b) 予算現額	4,093	4,214	4,214	2,540	2,540
		(c) 増減額(b-a)	▲ 502	0	▲ 798	▲ 1,595	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		4,093	4,214	4,214	2,540	2,540
	B. 執行済額		3,827	4,079	4,099	2,497	2,497
	うち交付金充当額		3,061	3,263	3,279	1,997	1,997
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.5%	96.8%	97.3%	98.3%	98.3%
	予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
・登録企業の開拓	目標	( 60件 )	( 70件 )	( 50件 )	( 50件 )	
	実績	41件	55件	25件	19件	
・求職者個別支援	目標	( 25件 )	( 25件 )	( 40件 )	( 40件 )	
	実績	46件	33件	38件	30件	
達成状況説明	・新たな登録企業の開拓については、ハローワークとの情報共有や企業へ直接訪問による開拓に取り組んだが、19件の登録にとどまった。 ・求職者の個別支援として、履歴書・職務経歴書の記入方法の支援や面接対策、マナー指導等を高齢者や若年者に対し、30件実施した。					

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)	
		・失業者のマッチング	目標	(      )	( 15人 )	(      )	(      )
	実績			7人			
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
実績							
進捗状況説明	・求職者からの相談件数は128件あったが、7件の就職内定にとどまった。2月～3月にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響で企業開拓や求職者の相談・指導等の実施が困難であったこともマッチング数に影響していると考えられる。						

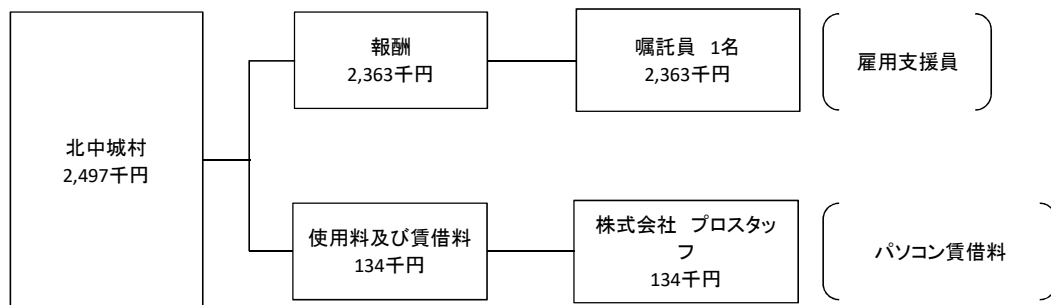
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、求職者が求人企業側に求める条件が高いため、希望に近い求人を他職種から選択できるよう、登録企業の開拓を進める必要がある。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、長期的に企業からの求人が減少する恐れがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、マッチング率向上のため、幅広く企業開拓を推進する。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響による求人募集が減少することより、失業者等の増加が懸念されるため、企業等に対し、行政側の雇用者支援策等の周知を強化し、雇用促進に取り組む必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・引き続き、ハローワーク等との情報共有や企業訪問等により、幅広く企業開拓に取り組む。  
 ・企業に対して行政の雇用者支援策の周知に努めることで求職者の雇用促進を図り、マッチング率向上に努める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,497	2,497	1,997	500	0



資金の 使途の 流れ 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>支出先の選定は、関係規則等に基づき行っており、妥当であると考えられる。</li> <li>不要額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。</li> <li>費目・使途については、雇用サポート業務に精通した人員を配置しており、目的に即し必要だと判断する。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	3-②		グジョブ連携推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア
	担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	雇用機会の創出・拡大と求職者支援
事業内容	児童生徒の勤労観や職業観の育成を図るため、ジョブシャドウイングや職場体験、出前フォーラム、校内ハローワーク等を実施する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	14,934	18,001	18,998	18,642
	(b) 予算現額	13,732	17,820	18,998	18,642	21,712
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,202	▲ 181	0	0	0
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	13,732	17,820	18,998	18,642	21,712
	B. 執行済額	13,720	17,820	18,998	18,642	21,377
	うち交付金充当額	10,976	14,256	15,198	14,913	17,102
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	98.5%
予算の状況の説明	・不要額335千円については、委託料の精算に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・ジョブシャドウイングの実施(小学校2校) ・職場体験の実施(中学校1校)	目標	(      )	(      )	( 3校 )	( 3校 )
		実績			3校	3校
	・きたなかティーンJOBクラブの実施	目標	(      )	(      )	( 実施 )	( 実施 )
		実績			実施	実施
	・出前フォーラムの開催(高校1校)	目標	( 1校 )	( 1校 )	( 1校 )	( 1校 )
		実績	1校	1校	1校	1校
・校内ハローワークの開催(1回)	目標	( 2回 )	( 2回 )	( 1回 )	( 1回 )	
	実績	2回	2回	1回	1回	
達成状況説明	・小学校2校でジョブシャドウイングを開催した。(参加人数:254人、協力事業所数:106事業所、企業開拓数:627) ・中学校の職場体験については、2年生を対象としていたが、1年生を対象にしたいと学校から要望があったため、R1年度は1・2年生を対象とし開催した。(参加人数:357人、協力事業所数:119、企業開拓数:645) ・ティーンJOBクラブについては、村内在住の高校生を対象に予定通り実施した。(参加人数:13人) ・出前フォーラムについては、村内県立高校にて予定通り実施した。 ・校内ハローワークについては、中学1年生を対象に予定通り実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		目標	(      )	( 80%以上 )	( 80% )	( 80%以上 )
	実績		①100% ②85% ③81% ④98%	95%	92%	
	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
実績						
進捗状況説明	事業対象の小中高校生に対しアンケートを実施した結果、「就業に対する意識が向上した」と回答した生徒が92%となり、成果目標を上回った。					

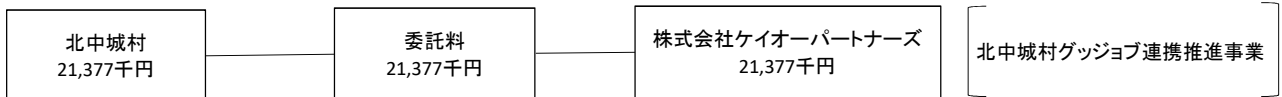
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の中長期的な効果の検証を図るため、進路や就職等に関する追跡調査を行うための試験的な予備調査を実施したが、対象者数の1割の回答であった。</li> <li>・過年度からの取り組みにより、学校、事業者との協力体制が構築されているが、今後は新型コロナウイルス感染症の影響により、休校等による必修授業の時間数確保により本事業の時間数が確保できない、各事業所の児童・生徒の受け入れができないなどの事態が生じる恐れがある。</li> <li>・職場体験については、生徒に人気の職業が協力企業数を上回り、希望する職場体験を受けることができない生徒がいる。特にIT関連の職場体験を希望する生徒が多く、生徒の希望に沿う職場体験を提供できるよう努める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追跡調査の回答率を上げるため、対象者への周知方法や調査方法などを検証し、事業の効果検証を図る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、児童生徒へ就業について学ぶ機会を与えられるよう、学校、事業所に対し本事業の必要性を改めて周知することで本事業の継続実施に取り組む必要がある。</li> <li>・生徒に対するきめ細かい支援を行うため、生徒が希望する職業の協力企業を増やす取り組みについて検討する必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・事業の有効性を検証するため、追跡調査の実施を検討する。
- ・学校、事業所に対し本事業の必要性を周知することで、これまで培ってきた協力体制を維持し、本事業の継続実施に向けて取り組む。
- ・職場体験について、生徒が希望する職業を体験できるよう協力企業の開拓を行い、就業意欲の向上に努めることで職業観、勤労観の育成を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,377	21,377	17,102	4,275	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業者は、実績や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと判断する。</li> <li>・予算規模は、業者見積もりを踏まえ設定しており、適正な規模であると判断する。</li> <li>・費目・用途については、精算時に検査をしており、目的に即し必要であったと判断する。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	営農支援強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ		
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	専門性の高い営農指導員の指導による、生産から販売までの総合的な営農支援を農業者に行うとともに、安定した農業経営に必要なパイプハウス整備支援を実施する。						
効果発現年度	■当年度                      ■後年度(2年度)						
実施方法	■直接実施    □委託    ■補助    □負担    □その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	4,205	4,414	11,164	4,414	4,414
	(b) 予算現額	4,205	4,414	4,414	9,574	11,726	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 6,750	5,160	7,312	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	4,205	4,414	4,414	9,574	11,726	
	B. 執行済額	4,205	4,414	4,414	8,974	11,726	
	うち交付金充当額	3,363	3,530	3,530	7,178	9,380	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	93.7%	100.0%	
予算の状況の説明	・安定した生産体制支援に必要なパイプハウス整備支援に要する費用 7,312千円を増額補正した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	・指導員の配置	目標	( )	( 2名 )	( 2名 )	( 2名 )	
		実績		2名	2名	2名	
・パイプハウス施設の整備補助	目標	( )	( )	( 2基 )	( 2基 )		
	実績			2基	2基		
達成状況説明	・当初の予定通り、農業に関する専門知識を持った者を指導員として配置することができた。 ・希望農家の営農実態について、補助先となるJAおきなわから情報収集し、営農支援体制の検討を行うことで、計画通り2基のパイプハウスを設置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	
			目標	( )	( 3,169千円以上 )	( 3,456千円以上 )	( 3,790千円以上 )
	実績		4,926千円	4,678千円	3,415千円		
	【R1成果目標】パイプハウス施設整備について、当該施設から生産される農作物の年間出荷額インゲン321千円以上 パッションフルーツ629千円以上	目標	( )	( )	( )	( 321千円以上 629千円以上 )	
		実績				281千円 159千円	
	【R2成果目標】(パイプハウス)【ゴーヤーの出荷額】目標出荷額 113,750(1r)/100(m <sup>2</sup> 単位へ)×パイプハウス設置面積 1,485m <sup>2</sup> =1,689,000円	目標	( )	( )	( )	( )	( 1,689,000円 )
実績							
進捗状況説明	・指導した農家の年間出荷額目標値について、大口生産農家が体調を崩し、生産量の落ち込みがあったものの達成率は92%となり概ね目標を達成した。 ・整備したパイプハウスから生産される農作物のR1成果目標について、インゲンは病害虫の被害が一部見られたものの、パイプハウス施設整備により安定した収量確保ができたことで概ね目標を達成したが、パッションフルーツは圃場の排水性が悪く、土壌改良を行う必要が生じたことから、計画通りの作付が出来ず実績が低迷した。						

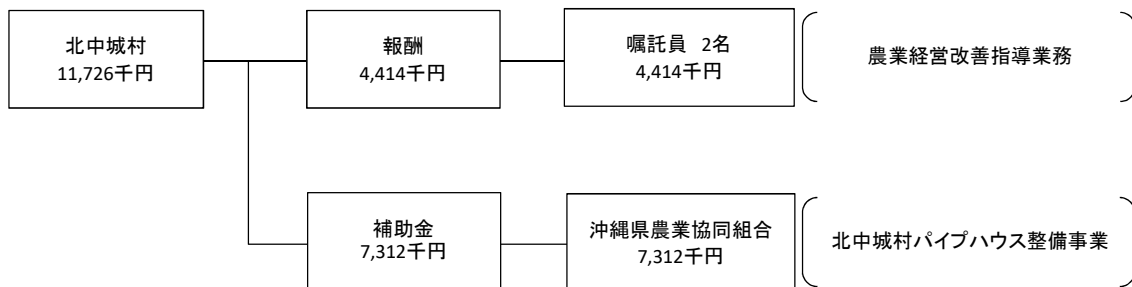
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>強化品目を選定し、生産や農業適正使用を農家へ指導したことにより、学校給食等への出荷量は増加となった。しかし、農家の高齢化等による生産力の低下が見られることから、村内大型商業施設への出荷額が大幅に減少した。大型商業施設への出荷については、安定した品質、生産量が求められることから、生産量の減少が続く場合、取引先の減少が懸念される。</li> <li>大型台風の相次ぐ襲来により露地栽培農家が被害を受けており、安定した生産量の確保が困難であるため、災害被害軽減の対策が必要である。</li> <li>過年度までに整備したパイプハウス施設により、災害被害は低減されているが、病害虫被害の防止や土壌改良の必要性など、施設ごとに多様な課題が生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>営農指導員による経営指導支援を継続して行うことで品質向上に努めるとともに、村内主力農家を増やし、安定した生産量を確保することで、拡大した販路の維持に取り組む必要がある。</li> <li>意欲ある農業者に対しパイプハウス整備の支援を行うことで、長雨や病害虫等の被害軽減を図る。</li> <li>パイプハウス施設ごとに、課題の改善に向けた対策を検討し、農業者と調整することで、きめ細かい営農指導を継続して実施する必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・引き続き営農指導員による支援・指導を行うことで、農業者の生産技術の向上を図り、安定した農産物等の販売による農業経営の支援に取り組む。特に、今後、新型コロナウイルス感染症の影響による学校給食の休止や、消費の低迷等により農家の所得減少が懸念されるため、営農指導員を通して情報収集に努める。  
 ・パイプハウス整備を希望する農業者への支援を引き続き実施する。  
 ・パイプハウス施設を整備した農業者との調整を密に取り、過年度までの課題を踏まえた営農への取り組みを支援することで生産量の増加を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,726	11,726	9,380	2,346	0



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・指導員は、面接を経て資格や経験、業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・パイプハウス整備については、見積り等を踏まえ積算しており、予算規模は妥当であったと判断する。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・パイプハウス整備に要する費用の一部を補助先が負担しており、補助要綱に則り妥当であったと判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、農業に精通した人員を配置しており、目的に即し必要であったと判断する。



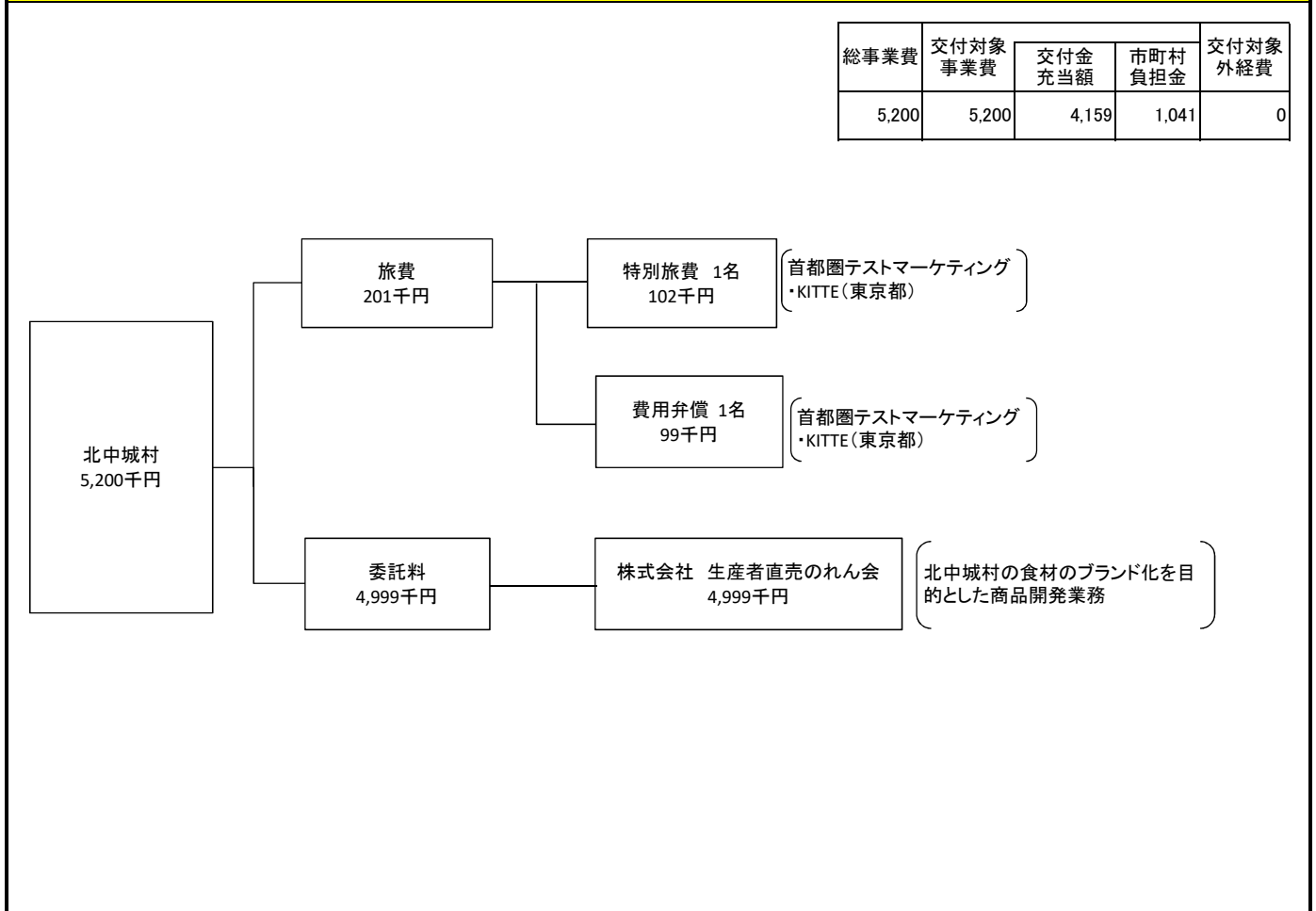
市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	地域ブランド構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	特産品の販売促進を図るため、過年度に開発した商品のブラッシュアップや特産品取扱店舗の維持・開拓、既存商品のテストマーケティングやPR活動を実施する。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	■直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	9,440	9,677	5,188	4,092	5,240
	(b) 予算現額	10,488	12,373	5,214	4,102	5,240	
	(c) 増減額(b-a)	1,048	2,696	26	10	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	10,488	12,373	5,214	4,102	5,240	
	B. 執行済額	7,753	10,329	5,191	4,101	5,200	
	うち交付金充当額	6,202	8,263	4,153	3,280	4,159	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	73.9%	83.5%	99.6%	100.0%	99.2%	
予算の状況の説明	・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・開発した特産品取扱店の維持・開拓		目標 ( 開拓 )	( 維持・開拓 )	( 維持・開拓 )	( 維持・開拓 )	
			実績 1店舗開拓	6店舗の維持・開拓	8店舗の維持・開拓	9店舗の維持・開拓	
	・北中城村特産品の調査の実施		目標 ( )	( )	( )	( 実施 )	
		実績			実施		
達成状況説明	・北中城村産パッションフルーツを村内事業者による有償販売し、事業者の創意工夫による既存商品のブラッシュアップに取り組んでもらうことで、取扱店の維持・開拓ができた。 ・東京都内において、アーサを使った既存商品やパッションフルーツを使った既存商品のテストマーケティングを実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	・アーサクッキー販売額		目標 ( )	( )	( 120千円 )	( 120千円 )	( )
			実績		120千円	120千円	
	・アーサ麺販売額		目標 ( )	( )	( 880千円 )	( 1,100千円 )	( )
			実績		1,100千円	130千円	
	・パッションスイーツ販売額		目標 ( )	( )	( 60千円 )	( 8千円 )	( )
			実績		8千円	347千円	
	・トロピカルブレンドティー販売額		目標 ( )	( )	( 17千円 )	( 14千円 )	( )
			実績		19千円	-	
	・パッションフルーツカッシュ販売額		目標 ( )	( )	( 17千円 )	( 20千円 )	( )
		実績		20千円	37千円		
・パッションフルーツタコライス販売額		目標 ( )	( )	( 55千円 )	( 63千円 )	( )	
		実績		63千円	54千円		
進捗状況説明	・事業者の創意工夫による既存商品のブラッシュアップにより、物産展やKITTE(東京)でこれら開発商品を販売したことで、アーサ麺・トロピカルブレンドティーを除く全商品において成果目標を達成することができた。 ・トロピカルブレンドティーについては、製造過程において必要な乾燥機を使用することができなくなったことにより製造中止となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村産パッションフルーツの収量が伸び悩んでおり、原料となるパッションフルーツの生産量確保に課題がある。特産品開発においては原料確保が非常に重要であることから、農業関係者との連携に加え、村内のパッションフルーツ生産者を増やす取り組みが必要である。</li> <li>・村産のパッションフルーツを活用した商品開発を試みているが、村産のパッションフルーツの原料確保に毎年苦慮しているため、原料確保ができない状況においても特産品の開発、商品のブラッシュアップができる体制を整備する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、JAおきなわ、パッションフルーツ生産者等と連携して生産体制の構築を図る。加えて、原料の買取金額の安定化や事業の周知等を行うことで村内生産者を増やし、村産原料の確保、一次加工品の増量に取り組むことで、パッションフルーツブランド化を図る。</li> <li>・村産原料の確保に取り組むとともに、少量の原料でも調理できるレシピ開発を検討するなど、多様な手法による特産品開発について検討する必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・商品加工するためのパッションフルーツ原料確保への取り組みを強化し、パッションフルーツ一次加工品の増産に取り組む。  
 ・レシピ開発などにより、調理方法を工夫するなど、多様な手法による特産品開発に取り組むことで、商品のブラッシュアップや特産品取扱店舗の開拓に努める。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業者は、プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと判断する。</li> <li>・不用額は5%以内であり、適正な規模であったと判断する。</li> <li>・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断する。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③		農を活かした北中城活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-カ	
	担当部署名	農林水産課		事業実施(予定)年度	平成28～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)
事業内容	水耕栽培実証実験を継続及び3年間の成果取りまとめを実施するとともに、その栽培品目による6次産業化商品(試作品)のテスト販売等を行うことで、市場性等の検証を行う。また、水耕栽培施設に必要なエネルギーや耕作放棄地の再生に資する堆肥等を再生可能資源(食物残渣)で賄えるような設備・装置の構築(製作)検討を図り、設備・装置の導入及び事業化実証(食の循環事業化)に向け、基本的な設計ならびに設備稼働に向けた実施計画の策定を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(2年度,3年度,5年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	15,140	14,943	25,499	19,472	
	(b) 予算現額	105,134	52,557	30,927	30,272		
	(c) 増減額(b-a)	89,994	37,614	5,428	10,800		
	(d) 繰越額	-	-	-	-		
	A. 計(b+d)	105,134	52,557	30,927	30,272		
	B. 執行済額	103,174	52,301	30,267	29,060		
	うち交付金充当額	82,539	41,841	24,213	23,248		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	98.1%	99.5%	97.9%	96.0%		
予算の状況の説明	*10,800千円の増額については、「再生可能資源を活用した北中城産業の活性化推進業務」の委託費を、増額補正したことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	・水耕栽培実証実験の実施	目標	( 実証実験設備の整備 )	( 実証実験実施 )	( 実証実験実施 )	( 実験完了 )	
		実績	実証実験設備の整備完了	実証実験実施	実証実験実施	実験完了	
	・エネルギー化、堆肥化に係る施設等の製作仕様・基本設計の検討	目標	( )	( )	( )	( 計画検討 )	
実績					検討完了		
・設備稼働に向けた実施計画の検討	目標	( )	( )	( )	( 計画検討 )		
	実績				検討完了		
達成状況説明	・水耕栽培実証実験では、栽培4品目以上の生産性及び適正な生育環境の構築などの実証を行うとともに、3年間の成果の取りまとめを行った。 ・また、水耕栽培品目を利活用した6次化商品の試作品について更なる改良を加え、市場ニーズ調査を実施した。 ・バイオガス発電に関する事業化への再検討を図るとともに、事業化に向けた実施計画及び基本的な設備・施設の・設計概要について取りまとめを行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2,3,5年度)	
		目標	( )	( 実証実験の完了 )	( 実証実験の完了 )	( 実証実験の完了 )	( )
	実績		完了	完了	完了		
	・6次産業化商品(試作品)のテスト販売	目標	( )	( )	( 3品 )	( 3品 )	( )
		実績			3品	3品	
	・エネルギー化、堆肥化に係る施設等の製作に資する仕様・基本設計の策定	目標	( )	( )	( )	( 基本設計の策定 )	( )
		実績				基本設計の策定	
	・設備稼働に向けた実施計画の策定	目標	( )	( )	( )	( 実施計画の策定 )	( )
		実績				実施計画の策定	
	【R2成果目標】	目標	( )	( )	( )	( )	( 6件 )
・水耕栽培農業者の増:0→6件	実績						
【R2成果目標】	目標	( )	( )	( )	( )	( 3品 )	
・6次産業化による村の特産品開発:3品以上	実績						
【R3成果目標】	目標	( )	( )	( )	( )	( 1件 )	
・村施設として導入:0→1件	実績						
【R5成果目標】	目標	( )	( )	( )	( )	( 2件 )	
・民間による小規模分散バイオガス発電設備設置数:0→2件	実績						
進捗状況説明	・水耕栽培実証実験では、3年間で23品目の実証実験を行い、事業化が期待できる8品目、栽培の確実性は得たが収益性に課題を持つ9品目の実験成果の取りまとめを完了させた。 ・水耕栽培品目を利活用した6次化商品の試作品について更なる改良を加え、市場ニーズ調査を実施し、4品目については製品化の目処を付けた。 ・エネルギー化、堆肥化に係る施設等の製作に資する基本計画の策定及び、設備稼働に向けた実施計画を策定したことで今年度の成果目標を達成することができた。 ・水耕栽培では令和3年度と5年度に民間事業者(それぞれの年度で1企業)が施設整備の上、施設稼働により事業を開始するとの意向を得る事が出来た。また、関連して令和3年度から現在の実証実験施設を活用し、隣接する「しおさい市場」施設と連携の上、市場の指定管理者が研修事業を実施することで村内での水耕栽培農業者の新規育成について目標6件の達成へ取組む目処を付けた。それとあわせて、本施設の活用により村給食センターへの安定的な安全・安心野菜の供給を可能とし、水耕栽培品の周知を図っていくことで、北中城農業の新たな取組みを村内外へアピールしていく準備を整える事ができた。						

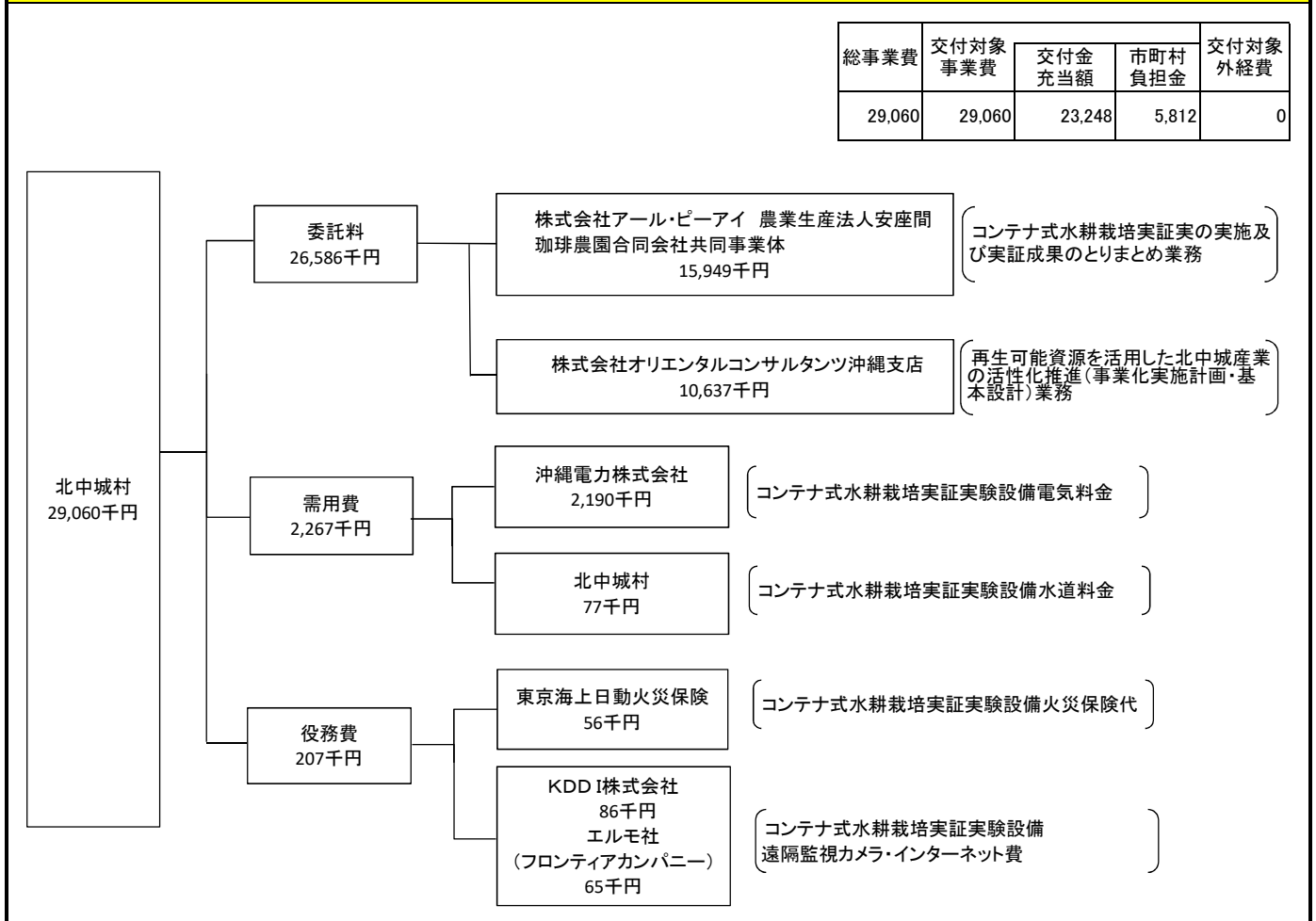
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(水耕栽培実証実験) ・事業化が期待できる品目を確認できたものの、課題が残る栽培品目もあり、それぞれの栽培設備・方法等の課題解決に取組む必要がある。 ・栽培品目による6次産業化に向けた開発品においては、協力企業と共に更なる品質向上を図り、市場ニーズ調査での評価を確かなものとしたが、栽培・生産に関する販売への安定的な見通しを付ける必要がある。	(水耕栽培実証実験) ・それぞれの実証設備の改善・改修による栽培環境の向上と栽培方法の工夫を図る。 ・水耕栽培品目を活用した6次産業化商品に関しては、村内外の企業と提携して原料の栽培安定化、商品の製造を行い、販路対策などについても協力を得ていく。
	(再生可能資源(生ごみ)によるバイオマスガス発電設備) ・原料となる残渣のメタンガス発生の有効性は高いことから、アンモニアの発生対策も含めた消化液の取扱いについて、EM菌などを活用し、有効かつ効率的な対策法と設備・装置の構築を図る必要がある。	(再生可能資源(生ごみ)によるバイオマスガス発電設備) ・アンモニアの発生対策も含めた消化液の取扱いについて、EM菌などを活用し、有効かつ効率的な対策法とエネルギー効率の良い設備・装置の構築を進めていく。

**今後の取り組み方針**

(水耕栽培実証実験)  
・現在までの取り組みについて現状の分析・チェックを図り、成果目標達成に向けたプランの検証・見直しを行い、令和4年までに収益事業として移動させ、村全体での水耕栽培品売上げ4千5百万円の達成と、遅れている水耕栽培農業者の育成に關しても令和3年度で2名、それ以後も各年度で2名の育成を実施し、令和5年度までに目標の6名を達成させていく。  
・本事業において作成した栽培品目の栽培マニュアル、栽培に關しての設備オペレーションマニュアルを用いて本施設を活用した研修を行うとともに、企業等と連携し、栽培環境の改善・効率化を図ることで、栽培収量の改善及び栽培品目の多様化に取り組み、事業化への推進を図る。  
・栽培品目を活用した6次産業開発商品の安定的な事業化(原料栽培供給・商品の製造・流通など)について取り組む。

(再生可能資源(生ごみ)によるバイオマス発電設備)  
・生ごみのエネルギー化・堆肥化への最適化かつ先進性を持った設備・装置の構築について取組みの明確化を図り、それらを踏まえた事業計画などの策定に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額が事業費の5%以内であることから、予算規模は適正であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費用・使用は、事業内容を勘案して適切かつ事業目的に即し真に必要なものであったとの確認を業務完了時の検査において精査しており、妥当なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④ 農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-キ		
	担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成30～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	フロンティア型農林水産業の振興	
事業内容	農を活かした「食」「福祉」「交流」「環境」に関する施設を整備するため、事業化計画の策定を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(2年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,887	10,544			
		(b) 予算現額	9,887	10,544			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計(b+d)	9,887	10,544			
	B. 執行済額		9,785	10,538			
	うち交付金充当額		7,827	8,430			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.0%	99.9%			
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、適切に業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・事業化計画の策定	目標	( 策定 )	( )	( )	( )	
		実績	策定				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過年度に策定した「農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画」を踏まえ、整備に向けた実施計画の検討・整理を行った。</li> <li>・自治会役員と意見交換、協議を行うと共に、地権者への意向調査を実施し、計画への反映を図った。</li> <li>・また、前年度に抽出された本計画へ賛同・関心を持つ事業者候補に対しての意見交換・調整を行うと共に、事業資金等の考え方などを検討した。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R2年度)
	・事業化計画の策定完了	目標	( )	( 策定完了 )	( )	( )	( )
		実績		策定完了			
	【R2以降成果目標】 実施計画及び事業化計画等を踏まえ、後年度の成果を設定する。	目標	( )	( )	( )	( )	( 設定 )
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過年度に策定した「農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画」を踏まえ、整備に向けた検討事項等に関して自治会役員と意見交換を行った。さらに地権者への意向調査を実施し、それら成果を持って計画への反映を図ることで、実現可能な整備に向けた実施計画を策定することができた。</li> </ul>						

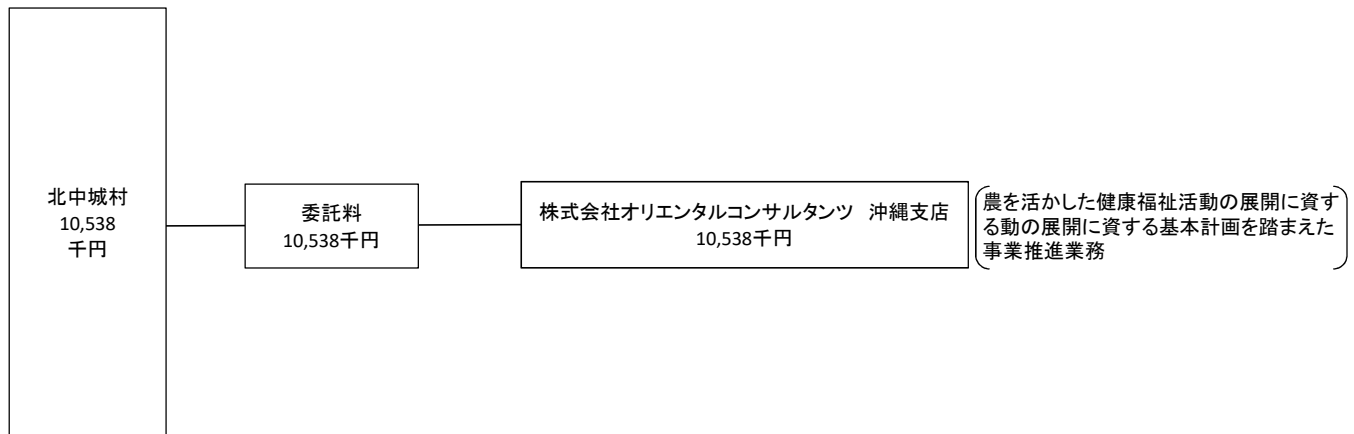
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・計画の推進にあたっては、村内営農者や地域住民等への周知・理解醸成が必要であり、さらに地権者の意向に沿った土地活用の検討が重要となる。</p>	<p>・村内営農者や地域住民を交えた意見交換、地権者の土地利用意向に沿った土地活用提案を行うと共に、実践する人材の確保や企業誘致に取り組むことで、計画の推進を図る。</p>

**今後の取り組み方針**

- ・計画推進に向け、地域説明会や意見交換会を行い、今後の人材育成、意欲ある農業者の掘り起こしに取り組む。
- ・滞在型市民農園や観光農園、福祉農園などにおける営農指導員の人材育成および本事業を実施する民間事業者の誘致に取り組む。
- ・民間事業者が活用可能な交付金・補助金の導入に向けた検討を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,538	10,538	8,430	2,108	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額が事業費の5%以内であることから、予算規模は適正であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費用・使途は、事業内容を勘案して適切かつ事業目的に即し真に必要なものであったとの確認を業務完了時の検査において精査しており、妥当なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

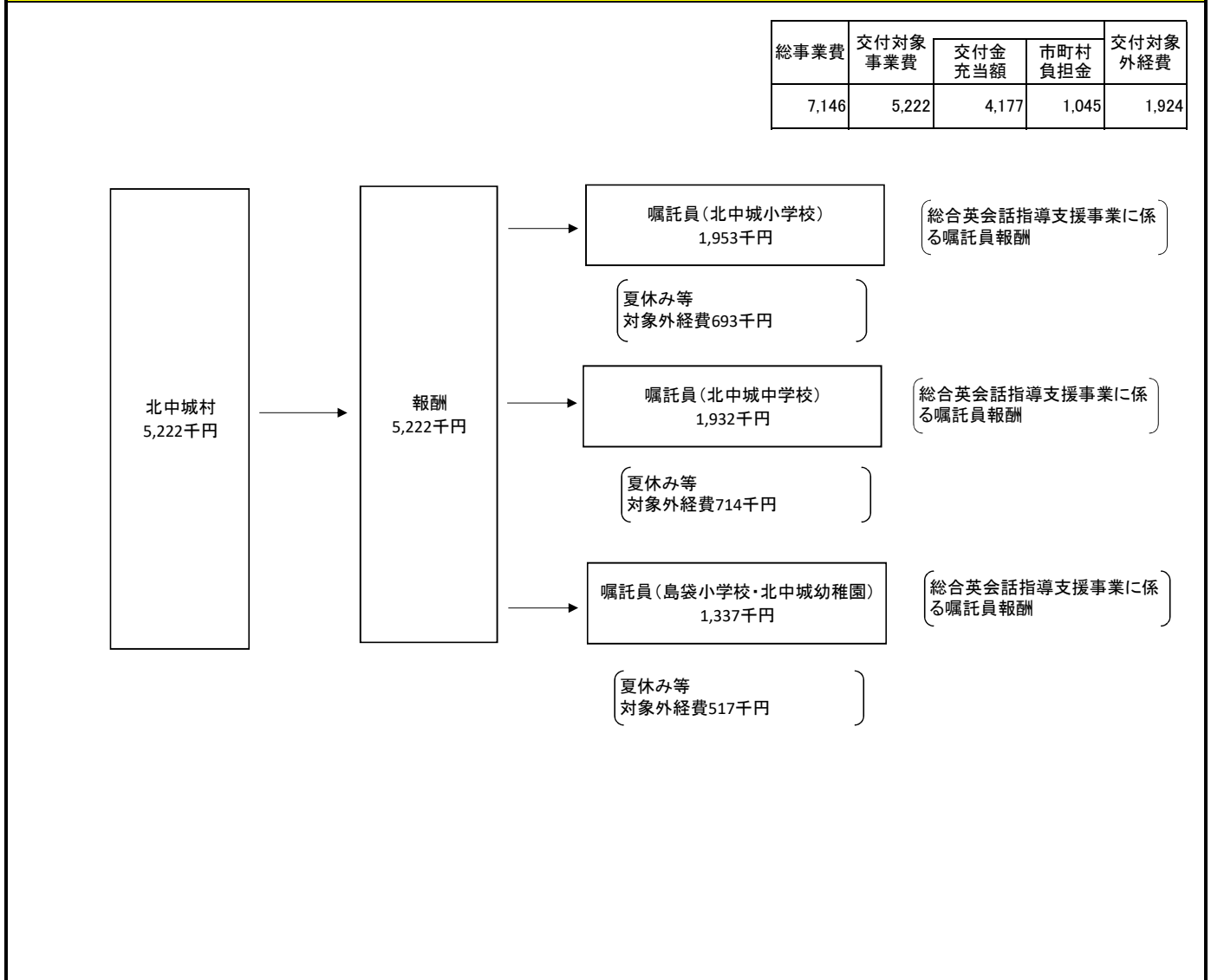
市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	総合英会話指導支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進	
事業内容	生きた英語に触れることで、児童生徒の英会話への興味・関心を高めるため、村立小中学校に英会話指導員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	6,552	7,938	7,938	7,938	7,275
	(b) 予算現額	6,497	6,734	6,347	6,367	5,222	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 55	▲ 1,204	▲ 1,591	▲ 1,571	▲ 2,053	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	6,497	6,734	6,347	6,367	5,222	
	B. 執行済額	5,438	6,641	6,248	6,360	5,222	
	うち交付金充当額	4,350	5,312	4,998	5,088	4,177	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	83.7%	98.6%	98.4%	99.9%	100.0%	
予算の状況の説明	*夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外経費とし、また、産前産後休暇取得により支払いが減ったことで2,053千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	・英会話指導員の配置 小学校:1人 中学校:1人 幼小兼務:1人	目標	( 3人 )	( 3人 )	( 3人 )	( 3人 )	
		実績	3人	3人	3人	3人	
	目標	(      )	(      )	(      )	(      )		
	実績						
達成状況説明	*1名が年度途中で産前産後休暇を取得した為、一時的に配置が出来ない学校があったが、年間を通して村立小中学校すべてに指導員を配置できたことで、概ね円滑に事業を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(H24年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	・英語検定の受検者数	目標	( 210人 )	( 435人 )	( 435人 )	( 543人 )	(      )
		実績		272人	357人	420人	
	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )	
	実績						
進捗状況説明	*英検受検者数については、検定実施日と中学校体育大会が重なるなどの事態が生じたが、他の実施日での受検を呼びかけることで目標達成率が77.3%となり、概ね達成することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的にネイティブスピーカーによる生きた英語を体験することで、英語の授業が楽しいと感じる児童生徒が中学生においては98%おり、英語への興味関心は高まってきている。また英語検定日と学校の主要行事が重なり目標の受験者数には達さなかったものの、前年度に比べ受験者数が増となっていることから、英語に対する興味の高さが伺える。</li> <li>一方、小学生では、英語の授業が楽しいと感じる児童は89.6%となっており、中学生と比較すると低めである。また、「英語が分からない」「意味が分からない」などの苦手意識を持つ児童がいるため、教育基盤となる小学生時からの英語学習支援の充実が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、英語担当教諭と英会話指導員が、指導方法等についての意見交換や情報交換を行い、個々の指導力の向上を図り、英語に対する興味・関心が高まるよう努める。加えて多くの生徒へ英語検定の周知強化を図ること、英検受験を促進する。</li> <li>小学校高学年の英語教科化に伴い、教科としての英語と英会話を関連付けながら興味関心を惹きつける授業展開や英語に親しませる授業により、更に興味・関心の向上に努める。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 引き続き、定期的に英語担当教諭と指導員が集まる機会を設ける。
- 英語担当教諭や英会話指導員など、関係者との情報共有を図り、楽しく英語を学び親しむ環境の整備や児童生徒の英語活用能力を高める授業を検討、実施する。
- 引き続き、英語検定、英検Jrについての案内・周知の徹底を図りながら、受験機会の創出に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 用・ 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導員は英語を母国語とする外国人を積極的に採用。昨年度からの継続者のため、面談や学校への聞き取りを行い、指導力等を判断しているため妥当であると考え。</li> <li>○予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと考える。</li> <li>○費用・使途は事業目的に即したものであり適切であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



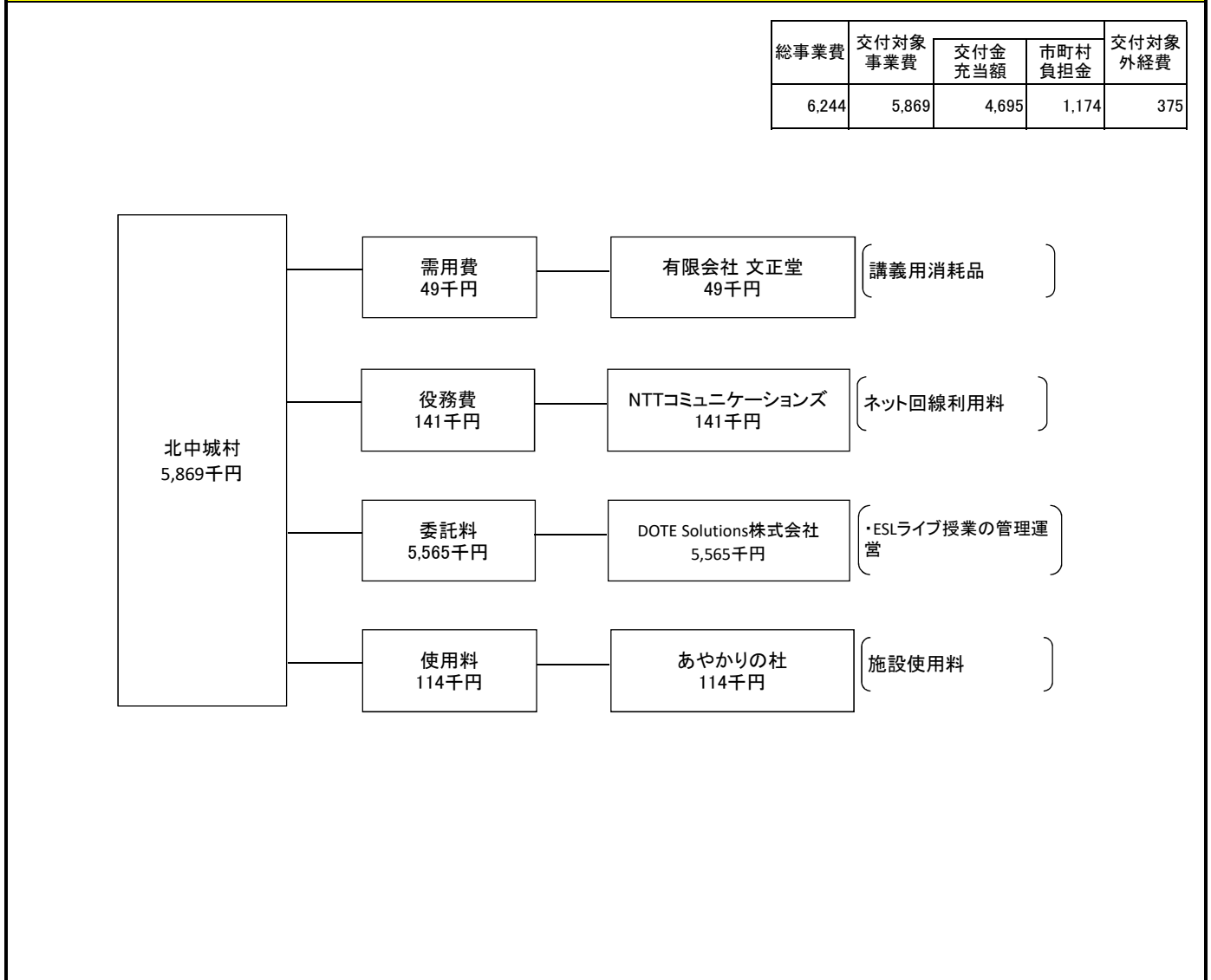
市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	アメリカ教育機関ネットワーク形成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	国際社会で対応できる人材を育成するため、米国教育機関とのWEBシステムによる集中講座を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	6,553	5,422	5,422	5,422	5,634
	(b) 予算現額	6,553	5,422	5,514	5,719	6,031	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	92	297	397	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	6,553	5,422	5,514	5,719	6,031	
	B. 執行済額	5,430	5,383	5,474	5,694	6,244	
	うち交付金充当額	4,344	4,306	4,379	4,555	4,695	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	82.9%	99.3%	99.3%	99.6%	103.5%	
予算の状況の説明	・397千円の予算増額については、委託業務の精算に伴うものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	・中学生クラス:講座64回(前期32回・後期32回)	目標	( 64回 )	( 64回 )	( 64回 )	( 64回 )	
		実績	64回	64回	64回	64回	
	・小学生クラス:講座64回(前期32回・後期32回)	目標	( 64回 )	( 64回 )	( 64回 )	( 64回 )	
		実績	64回	64回	64回	64回	
達成状況説明	・小学生クラス・中学生クラスともに計画通りの講義を開催することで、活動目標を達成することができた。 ・児童・生徒の英語力が向上するとともに、授業での積極性や自身で考えて意見を述べる力なども養われており、本村の国際性に富む人材育成へ向け児童生徒自身の意識を高めることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		・定期テストにおける英語習熟度:講座を受けた生徒全員80点以上	目標	(      )	(      )	前期:全生徒 後期:全生徒	前期:全生徒 後期:全生徒
		実績	/		前期:22名中5名 後期:20名中5名	前期:21名中7名 後期:23名中19名	/
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
		実績	/				/
	進捗状況説明	・前期:成果目標の達成率は3割程度だが、全体の得点率でみると70点を越えており、目標までわずかに届かない生徒が多かった。 ・後期:受講生の8割は目標の80点を越えており、目標点数に届かなかった生徒も70点台と全体的に習熟度が高まっている。 ・過年度から受講している生徒も多く、習熟度の格差もなくなってきており、成果目標も一部達成している。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生クラスにおいては、新規受講生と継続受講生との英語力の差はあるものの、日本語講師による支援体制を強化したことで習熟度の格差が縮まっている。</li> <li>・小学生クラスでは、家庭での学習環境の違いによる英語力の差が大きく見られる。</li> <li>・部活動や個人的理由により講座に参加できない生徒がおり、補習や課題等に対応しているが、授業で遅れをとっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生クラスにおいては、継続して新規受講生に対する支援体制を強化することで、英語力の底上げを図る。</li> <li>・小学生クラスにおいては、英語力のバラつきを抑えるため、遅れをとっている生徒に対してALTが集中的に学習指導を行える体制を整備することで、海外大学講師の授業に対応できる環境づくりに取り組む必要がある。</li> <li>・補習内容を見直し、講座受講の前後にALTによる指導を通し復習等を行う。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・新規受講生に対して補助員を配置し、理解を深めることができる学習体制の構築に取り組む。
- ・継続受講者に対し、前年度より難易度の高い課題を与えることで、さらなる英語力の向上に取り組む。
- ・習熟度格差を縮め、より英語力を向上させる体制にするため少人数体制のクラス編成を検討する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者については、米国大学との交渉、契約等を県内で行える唯一の事業者であることから妥当といえる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は事業者より見積もりを取っており適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受講生からは受講料を徴収しており、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目、用途については、大学へ支払う受講料、人件費、米国との交渉等に係る費用として必要である。

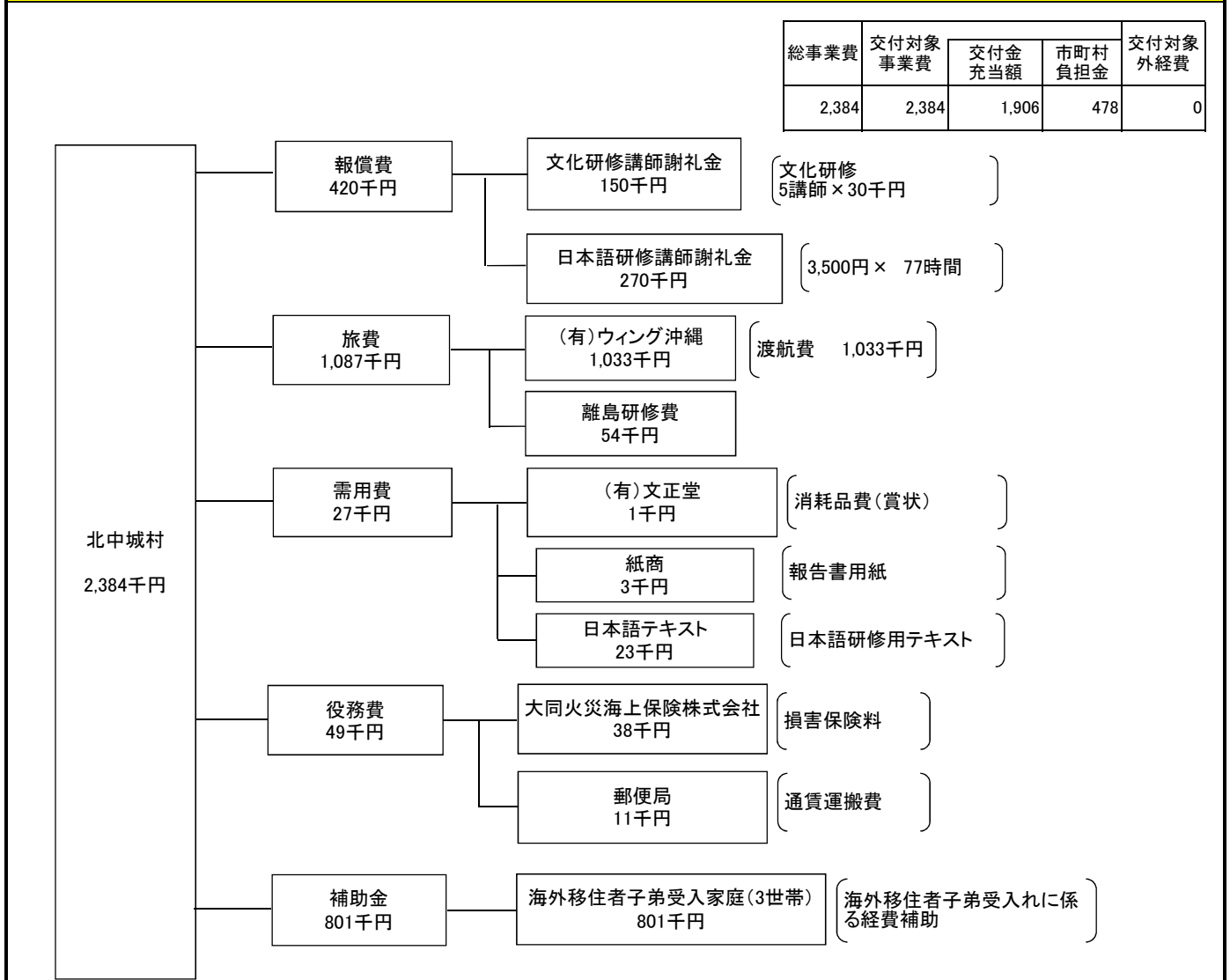
市町村名		北中城村				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	5-③		海外子弟青年交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア
	担当部署名	総務課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所
事業内容	海外と本村を結ぶ懸け橋となる人材育成を図るため、南米3カ国(ペルー、アルゼンチン、ブラジル)から研修生の受け入れを実施する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	4,413	4,490	4,122	4,222
	(b) 予算現額	4,189	3,540	3,516	3,135	2,420
	(c) 増減額(b-a)	▲ 224	▲ 950	▲ 606	▲ 1,087	▲ 622
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	4,189	3,540	3,516	3,135	2,420
	B. 執行済額	3,733	3,385	3,432	3,018	2,384
	うち交付金充当額	3,451	2,708	2,745	2,414	1,906
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	89.1%	95.6%	97.6%	96.3%	98.5%
予算の状況の説明	・622千円の予算減額については、日本語研修講師謝礼報酬(▲157千円)、海外子弟研修生受け入れに伴う旅費(▲456千円)及び海外子弟受け入れ補助金(▲9千円)の実績によるものである。 ・36千円の不要額については、消耗品及び役員費の実績に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・海外子弟青年研修生受け入れ人数	目標	( 3人 )	( 3人 )	( 3人 )	( 3人 )
		実績	3人	3人	3人	3人
	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	
	実績					
達成状況説明	・海外移住者子弟研修生について、南米3カ国の村人会と連携を図り、計画通り3名を受け入れた。研修を通じてホームステイや日本語研修、伝統芸能講座による沖縄の文化・習慣を体験することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
		目標	(      )	( 80% )	( 80% )	(      )
	実績		80%	100%		
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )
実績						
進捗状況説明	・研修生に研修先の歴史等に興味を持ったか等のアンケートをした結果、興味を持ったとの回答が100%となり、成果目標を達成することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南米3カ国の村人会と連携を図ることで研修内容(日本語や三線等の文化研修)の事前学習ができ、来日後の研修を円滑に進めることができた。</li> <li>・研修生や受入家庭の世代交代が進み、受入家庭の確保が年々困難になってきている。</li> <li>・研修生によって日本語の習熟度に差があり、受入家庭や関係者との意思疎通が難しい面があったことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の充実度を上げるため、研修の意義を理解の上で研修に臨むことができるよう引き続き村人会と連携を図る必要がある。</li> <li>・村内の学校との交流や村民との交流の場を設け、事業の目的を周知することで、受入家庭の確保に努める必要がある。</li> <li>・受入家庭の負担軽減を図るため、要望・意見を取り入れやすい環境を整備する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・研修がより充実したものとなるために、事前の日本語学習や文化研修の基礎的技術を習得させるよう南米3カ国の村人会へ依頼する。
- ・学校や村民との交流を通じて本事業の目的を周知を図ることで、受入家庭の確保に取り組む。
- ・受入家庭でのハウスルールについて、日本語の習熟度が低い研修生にも理解しやすい内容に修正し、受入家庭の負担軽減に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



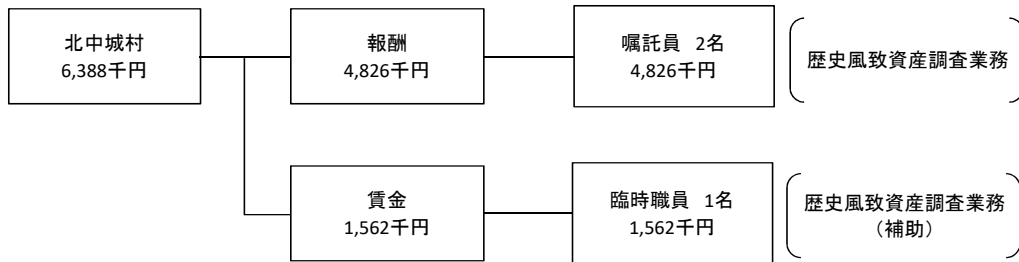
資金の 使途の 流れ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・研修生及び派遣生については、村及び各村人会で面接等により選抜しており、妥当であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・研修生に対し、研修に必要な費用(滞在費・旅費等)のみを補助対象としており、負担関係は妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・使途について、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	琉球歴史風致資産調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	北中城村独自の歴史文化の継承・普及活用・情報発信を図るため、これまでの調査成果の取りまとめ(調査報告書原稿執筆)及び伝統的祭祀の映像記録の一般公開に向けた監修作業を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(2年度,4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,459	8,881	8,881	8,835	8,829
		(b) 予算現額	9,019	8,881	8,831	8,835	6,416
		(c) 増減額(b-a)	▲ 440	0	▲ 50	0	▲ 2,413
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	9,019	8,881	8,831	8,835	6,416
	B. 執行済額		8,947	8,795	8,822	8,828	6,388
	うち交付金充当額		7,157	7,036	7,057	7,062	5,111
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.2%	99.0%	99.9%	99.9%	99.6%
予算の状況の説明		・減額補正2,413千円については、当初3名の配置を予定していた嘱託員のうち1名を確保できなかったことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・民俗祭祀行事の調査結果の編集・監修・入稿用版下の作成。	目標	( )	( )	( )	( 作成 )	
		実績				作成	
	・史跡・名勝等の調査結果の編集作業の実施	目標	( )	( )	( )	( 実施 )	
		実績				実施	
・調査記録(動画)の公開に向けた編集及び監修作業の実施	目標	( 10件 )	( 15件 )	( 15件 )	( 実施 )		
	実績	14件	15件	15件	実施		
達成状況説明	・「民俗祭祀行事に関する編集等」については、文字原稿部分すべての版下作成を完成させ、「史跡・名勝等の編集作業」に着手できた。 ・動画編集については、全62件中60件の完成(校了)となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2,4年度)
	・公開用動画記録の完成	目標	( )	( 45% )	( 70% )	( 100% )	( )
		実績		46%	70%	96%	
	・歴史風致資産調査のとりまとめ	目標	( )	( )	( 40% )	( 80% )	( )
		実績			48%	93%	
	【R2成果目標】 ・WEB公開による年間アクセス数 660回	目標	( )	( )	( )	( )	( 660回 )
実績							
【R4成果目標】 ・村の歴史に対する理解度が深まったか(80%以上)を含め、資料集の利用者に対するアンケート調査により、本事業のあり方を検証する。	目標	( )	( )	( )	( )	( 80%以上 )	
	実績						
進捗状況説明	・公開用動画記録については、未監修分18件の完成をめざしたが、16件にとどまったものの、概ね目標は達成することができた。 ・歴史風致資産調査のとりまとめについては、原稿監修を精力的に進めた結果、報告書原稿の版下324/350ページを完成(校了)し、目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・嘱託員1名の退職と後任を確保できなかった事により事業実施体制が崩れたことが、成果目標の達成が困難になった要因と考える。</p>	<p>・欠員により生じると目された遅れをできるだけ抑えるため、より厳密な進捗管理と作業上の課題の早期把握を目的に、動画監修及び原稿編集の工程・監修会議を週1回程度のペースで開催し(のべ56回)、監修・校正を着実に積み重ねることで成果目標の達成に努めた。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・R1年度において一部成果目標は達成できなかったものの、短期間刻みでの工程・監修会議による進捗管理は作業の遅延軽減に有効であったと考えている。類似の作業が続くR2年度においても同様の方法で作業に取り組み、R1年度の未達成分の解消と効率的な業務遂行に努める。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,388	6,388	5,111	1,277	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先について、村規則にのっとり専門知識を有する人員を委嘱しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額が予算額の5%以下となっており、適正な規模であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を点検した結果、適正であったと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



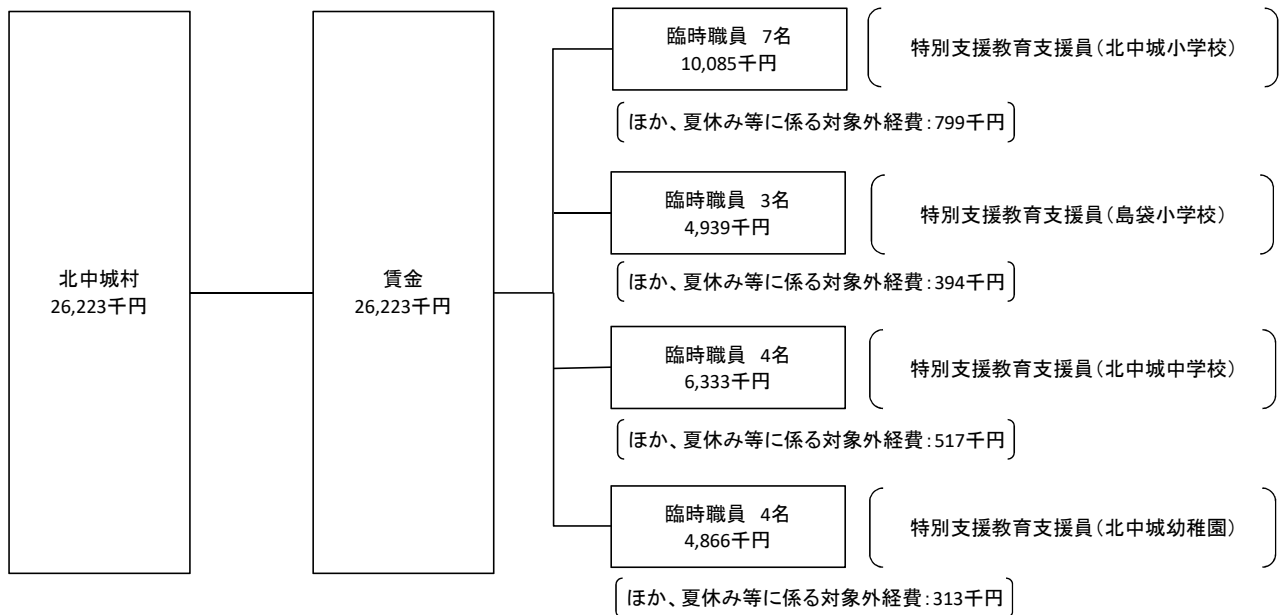
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な児童生徒一人一人との信頼関係を築き、個々に応じた適切できめ細かな支援を実施するため、担当する支援員の継続的な雇用が必要である。</li> <li>・保護者へのアンケートで「支援員の支援により子どもに変化があった」との回答が約8割いることから、支援員の配置により学校生活や学習上の困難の改善が図られている。一方で、「支援員の個人差がある」や「支援員が誰か分からない」などの回答があったことから、支援員のスキルアップや保護者との連絡体制の充実が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員の勤務条件等について検討し、継続雇用ができるよう職場環境を整える。</li> <li>・引き続き、支援員を対象とした研修会を定期的開催することや特別支援教育主任教諭を中心に個々の情報や多様な障がいやこれらの支援方法に関する知識を共有することで、支援方法の偏りを抑制し、支援の質の向上を図る。加えて、対象児童等が安心して学校生活を送れるよう、学校と保護者が密に関わりながら個々に適した支援を行えるような体制の構築を図る。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・支援員が働きやすい職場になるよう学校管理者とも連携し、職場環境改善に取り組む。
- ・引き続き、支援員を対象とした研修会の開催や情報共有の場を多くすることで支援員の人材育成に取り組む。
- ・今後も学校と保護者との連携を密に取りながら、支援体制の充実に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
28,246	26,223	20,978	5,245	2,023



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員は、面接を経て経験や業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。</li> <li>・予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと考える。</li> <li>・児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目・使途は事業目的に即したものであると判断する。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



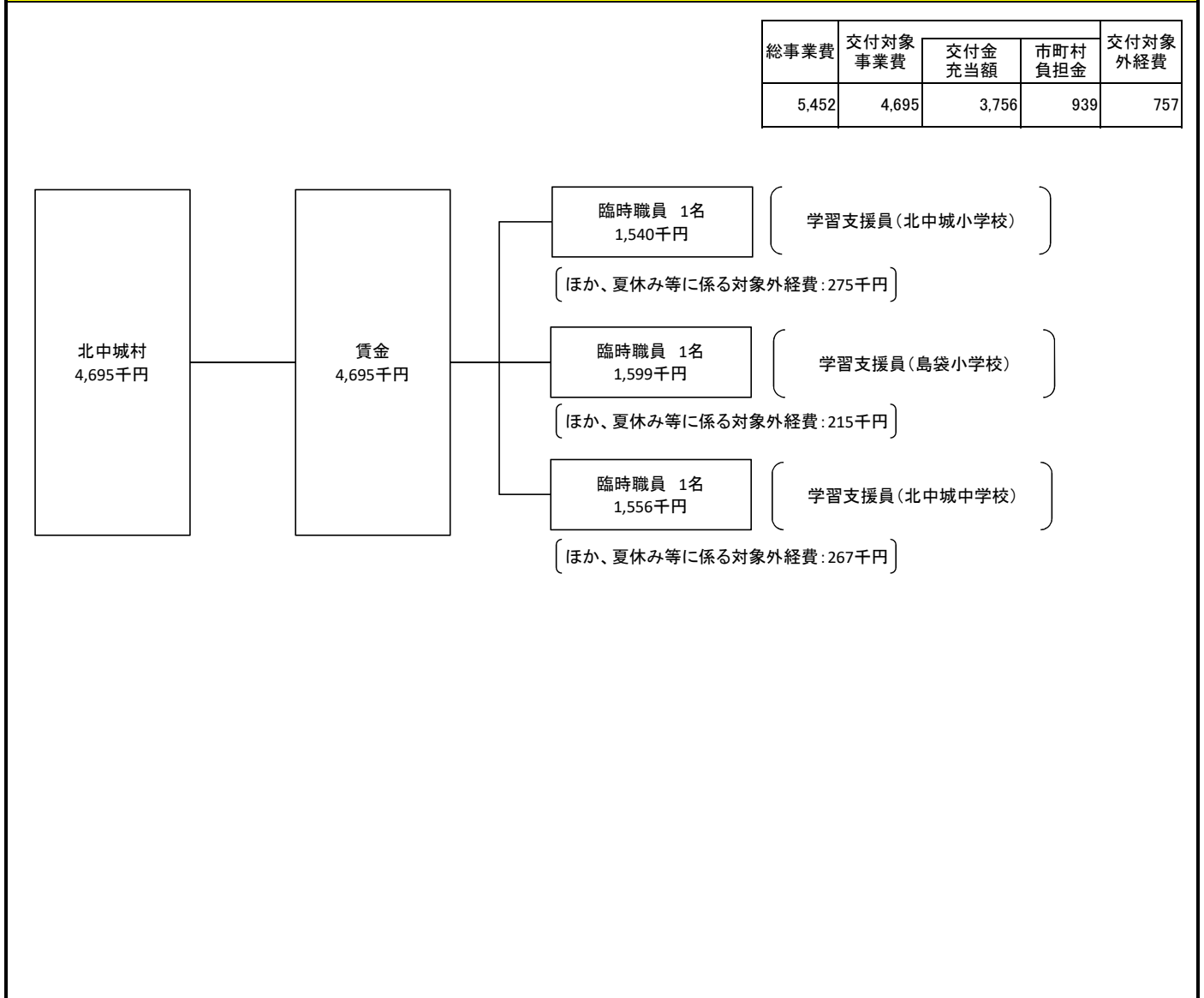
市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②		学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-エ	
	担当部署名	教育総務課		事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	要保護児童やひとり親家庭等への支援 Ⅲ-3
事業内容	学習の遅れがちな児童生徒に対する支援を行うため、村立小中学校に学習支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	4,881	4,881	5,406	4,590	5,410
	(b) 予算現額	4,236	4,632	4,607	4,326	4,695	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 645	▲ 249	▲ 799	▲ 264	▲ 715	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	4,236	4,632	4,607	4,326	4,695	
	B. 執行済額	3,717	4,423	4,556	4,326	4,695	
	うち交付金充当額	2,973	3,538	3,644	3,460	3,756	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	87.7%	95.5%	98.9%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外経費としたことや勤務実績による執行残として715千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・学習支援員の配置 小学校2校/2名 中学校1校/1名	目標	( 小学校:2人 中学校:1人 )	( 小学校:2人 中学校:1人 )	( 小学校:2人 中学校:1人 )	( 小学校:2人 中学校:1人 )	
		実績	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	
		目標	(                    )	(                    )	(                    )	(                    )	
	実績						
達成状況説明		・村立小中学校すべてに支援員を配置することができ、活動目標を達成し、事業を円滑に実施することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	・沖縄県学力到達度調査における平均正答率30%未満の割合の減少 小学5年生:算数(18.5%以下) 中学2年生:数学(37.6%以下)	目標	(                    )	( 小5算数:3.7%以下 中2数学:2.8%以下 )	( 小5算数:18.5%以下 中2数学:37.6%以下 )	( 小5算数:18.5%以下 中2数学:37.6%以下 )	(                    )
		実績		小5算数:9.7% 中2数学:43.8%	小5算数:13.4% 中2数学:29.9%	小5算数:15.0% 中2数学:23.1%	
	・沖縄県学力到達度調査における無答率の減少 小学5年生:算数(6.8%以下) 中学2年生:数学(10.5%以下)	目標	(                    )	( 小5算数:4.1%以下 中2数学:9.7%以下 )	( 小5算数:6.8%以下 中2数学:10.5%以下 )	( 小5算数:6.8%以下 中2数学:10.5%以下 )	(                    )
		実績		小5算数:4.6% 中2数学:15.6%	小5算数:2.6% 中2数学:8%	小5算数:6.5% 中2数学:9.8%	
進捗状況説明		・平均正答率30%未満の割合については、小学校で前年度より1.6%増加する結果となったものの、小学校及び中学校ともに成果目標を達成している。 ・無答率の割合についても、小学校及び中学校ともに前年度より増加しているが、成果目標を達成している。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援を必要とする児童生徒は年々増加傾向にあり、個々が異なる課題を抱えていることから、それぞれに応じた課題分析が必要となる。</li> <li>・小学校の平均正答率30%未満の割合は前年度より増加しており、基礎的基本的な学習内容や学習習慣が身につけていない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援を必要とする児童生徒について、担任、教科担任、特別支援教育主任教諭、特別支援教育支援員等と連携し、組織的な授業改善を行い、授業課題と家庭学習の連動による個に応じた学習支援を実施することにより支援体制の充実を図る。</li> <li>・ICT機器の活用による視覚的に分かりやすい授業やつまづきのある児童生徒への支援のあり方についての研修、教諭や他の支援員との情報共有の機会の充実を図ることで、基礎的基本的な学力の定着に繋げる。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・本村の「キャリア教育」を視点においた教育活動の実践に沿って、「計画的」「自主的」な学習を行えるよう、教諭と支援員によるチームティーチングによるきめ細やかな指導・学習支援に努め、適切な学習支援や学校課題の解決につなげていく。  
 ・各学力調査の分析をもとに組織的、継続的に授業改善や補修体制、個別支援に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員は、教員免許を有している者を面接を経て採用しており、妥当であると判断する。</li> <li>・予算規模については、村規則等に則り積算しており、妥当であったと考える。</li> <li>・児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目・用途は事業目的に即したものであると判断する。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-③	児童生徒の県外派遣旅費等支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成29～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3	
事業内容	県外大会への参加を全児童生徒に等しく機会を与え、児童生徒の視野を広げるため、学校教育の一環として派遣されるものに対し派遣費用を補助する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 (      )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a) 当初予算額	2,537	2,537	2,440		
	(b) 予算現額	3,177	4,231	4,511			
	(c) 増減額(b-a)	640	1,694	2,071			
	(d) 繰越額	-	-	-			
	A. 計(b+d)	3,177	4,231	4,511			
	B. 執行済額	2,853	4,231	4,511			
	うち交付金充当額	2,282	3,384	3,609			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	89.8%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明	・当初想定していた派遣人数を上回ったため、補助金2,071千円を増額補正した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	・県外大会への派遣団体数	目標	( 支援の実施 )	( 5団体 )	( 5団体 )	(      )	
		実績	支援の実施	8団体	8団体		
			目標	(      )	(      )	(      )	
		実績					
達成状況説明	・小学校では2団体58人、中学校では6団体98人を県外へ派遣し、成果目標を達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	・派遣された児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。	目標	(      )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	(      )	(      )
		実績		88.0%	95.1%		
			目標	(      )	(      )	(      )	(      )
			実績				
進捗状況説明	・大会派遣後の児童生徒の様子について、95%の保護者が、「視野が広がった」「積極的になった」など意欲が高まっていると回答し、目標を上回った。また、学習意欲についても、93.6%が「向上している」と答えており、県外大会への参加が学習面においてもモチベーションの向上に寄与していることが確認でき、児童生徒にとって効果が高い事業であると考え。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校事務との連携により、スムーズに補助金申請がなされたが、補助金の積算方法が複雑であり、事務手続きが負担となっている。</li> <li>・教職員の協力により、本事業の目的等について保護者に対して周知がなされたことで、大多数の保護者からアンケートの回答を得ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助制度の見直しにより提出資料の簡素化や補助額の定額化など事務手続きの簡素化を図る。</li> <li>・引き続き、学校と連携し、本事業の目的や内容について周知を行うことで、アンケートの必要性等について理解促進に取り組む。</li> </ul>

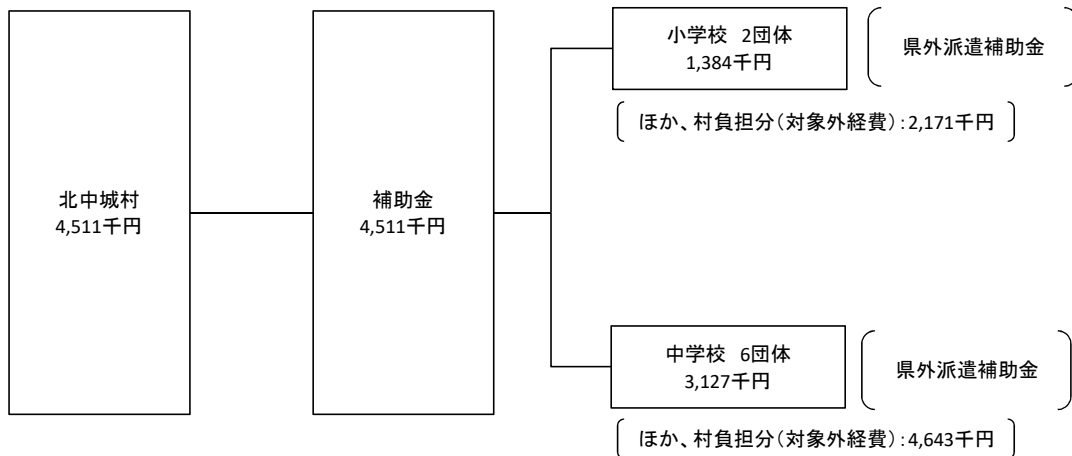
**今後の取り組み方針**

・補助金交付要綱の見直しによる提出資料の簡素化や補助額の定額化により、交付申請から交付決定・補助金支給までを迅速に行い、県外派遣当日までには補助金の支給ができるよう、事業の円滑化に努める。

・引き続き、県外大会に参加したことによる、児童生徒に与えた影響を確認するため、アンケート調査による効果検証に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,325	4,511	3,609	902	6,814



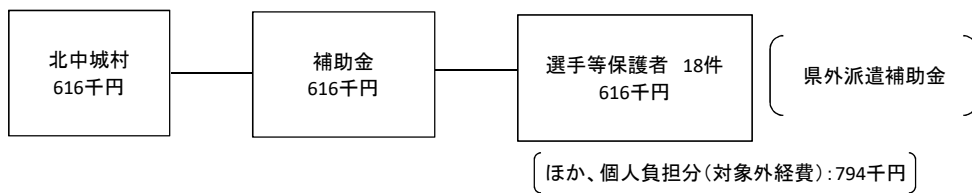
資金の用途の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助先への交付決定は、要綱等に則り行っており、妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は村の規定に基づき適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者負担額を1/2としており、負担割合は妥当であると考えます。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・用途については、実績報告等で確認・精査しており、事業目的に即した必要なものであると判断する。

市町村名		北中城村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-④	小中学生県外派遣支援(社会教育関連)事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3	
事業内容	村に在住する子ども達が等しく県外大会に参加する機会を与えることで子ども達の視野を広げるため、村・県を代表して派遣されるスポーツ・文化活動に対して航空運賃を補助する。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	□直接実施      □委託      ■補助      □負担      □その他(      )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a) 当初予算額	494	494	950		
	(b) 予算現額	886	940	616			
	(c) 増減額(b-a)	392	446	▲ 334			
	(d) 繰越額	-	-	-			
	A. 計(b+d)	886	940	616			
	B. 執行済額	886	940	616			
	うち交付金充当額	708	751	493			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明	・当初想定していた派遣人数を下回ったため、補助金334千円の減額が発生した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	・県外大会への派遣者数	目標	( 支援の実施 )	( 26名 )	( 50名 )	(      )	
		実績	支援の実施	58名	40名		
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	
実績							
達成状況説明	・派遣人数が年度によって変動があるため活動目標を下回ったが、本村の派遣基準に基づき、適切な支援を実施し40名の児童生徒を派遣した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
		(      )	( 80% )	( 80% )	(      )	(      )	
	・派遣された児童の視野が広がったか(80%)以上を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方を検証する。	実績		100%	100%		
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
	実績						
進捗状況説明	・全ての保護者から「視野が広がった」「何事にも積極的になった」等のアンケート回答があり、成果目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金対象経費の積算方法が複雑であり、保護者、行政の双方にとって負担となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出資料の簡素化や補助額の定額化など、事務手続きを簡素化することで、保護者、行政の負担軽減を図るとともに、本事業の周知に取り組むことで円滑な事業実施に努める必要がある。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金交付要綱の見直しを行い、保護者、行政の事務手続き等の負担軽減に努める。</li> <li>ホームページ等を通して補助金交付要綱の見直しについて周知を行う。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,410	616	493	123	794



資金の用途の流れ、点検、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助先は、要綱等に則り交付決定を行っており、妥当であると考ええる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額が発生したが、予算規模は適正であると考ええる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・航空賃以外は受益者にて負担しており、負担割合は妥当であると考ええる。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・用途については、実績報告等で確認・精査しており、事業目的に即した必要なものであると判断する。

市町村名	北中城村
------	------

**令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	8-①	健康長寿のまちづくりアクション事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成26～令和3年度	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4

**事業内容**  
 村民の健康課題にアプローチし、多くの村民に運動習慣の啓発を図るため、健康イベントを実施する。

**効果発現年度**  
 当年度       後年度(      年度)

**実施方法**  
 直接実施     委託       補助       負担       その他 (      )

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	2,873	7,446	5,602	4,984	7,353
		(b) 予算現額	2,814	6,814	5,855	5,044	6,727
		(c) 増減額(b-a)	▲ 59	▲ 632	253	60	▲ 626
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	2,814	6,814	5,855	5,044	6,727
	B. 執行済額		2,680	6,345	4,986	4,058	6,711
	うち交付金充当額		2,144	5,076	3,988	3,246	5,369
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.2%	93.1%	85.2%	80.5%	99.8%
	予算の状況の説明		・当初予定していたタウンウォーキングをハートロードウォーキングへ規模縮小したため、626千円の減額補正を行った。				

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況			
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
・定例健康イベント(ヨガ等)の開催	目標	( 5回 )	( 2回 )	(      )	(      )
	実績	4回	2回		
・親子で参加できる健康イベントの開催	目標	(      )	( 2回 )	(      )	(      )
	実績		2回		
・健康マイレージの導入	目標	(      )	( 導入 )	(      )	(      )
	実績		導入		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や村内各種団体と連携した健康づくりイベント(城ヨガ)を実施し、目標を達成することができた。</li> <li>・親子で参加しやすいイベント(健活フェスタ、ハートロードウォーキング)を企画することで幅広い世代の参加があり、普及啓発に繋がった。</li> <li>・働き盛り世代をターゲットにしたスマホアプリ「健康マイレージ」の導入により、その世代への運動習慣定着に向けた事業が展開できた。</li> </ul>				

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
			・健康イベントへの総参加者数	目標	(      )	( 1,000人 )
	実績		1,027人	925人	689人	
	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
	実績					

**進捗状況説明**  
 ・計画的な健康イベントの開催、村ホームページや広報誌、SNSでの周知強化に取り組んだことで総参加者数が成果目標を上回った。  
 ・年代別の参加率は10代(0.4%)、20代(14.2%)、30代(28.8%)、40代(30.6%)、50代(13.2%)、60代以上(12.8%)で、本村がターゲットとしている働き盛り世代(30代-50代)が全体の72.6%と高い参加率となっている。

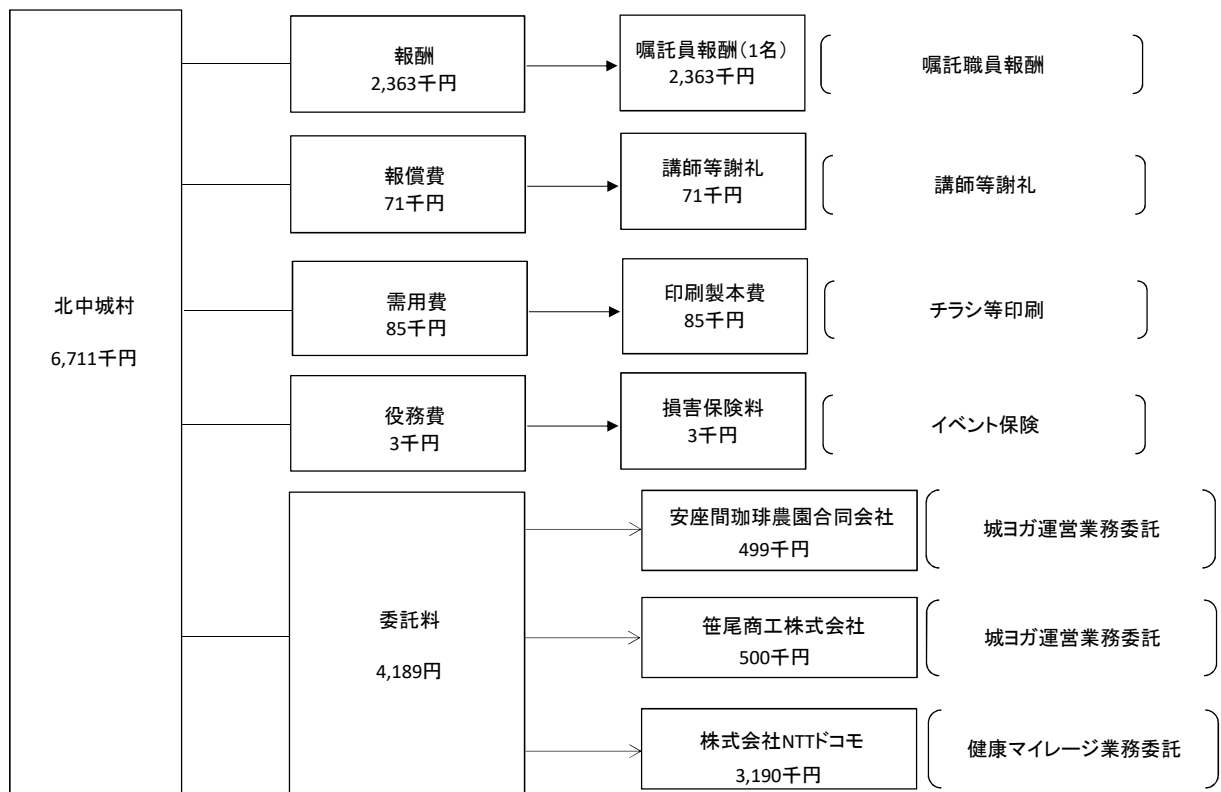
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・庁内関係課で構成される北中城村健康サポートチームによる意見交換や健康イベントとの連携を図ることで、村民参加者数の増加に向けた取り組みを検討する必要がある。	・北中城村健康サポートチームで、事業効果(ターゲットを明確にしたイベント開催での参加者増)を検証し、地域の健康課題の共有に取り組むことで村民参加者数の増加が期待されるイベント開催に取り組む。
	・過年度と比較すると全体の参加者数は減少しているものの、親子、若者、高齢者など、各世代が参加しやすいイベントを開催したことで、本村がターゲットとしている働き盛り世代から多くの参加者を集めることができたため、今後も当該世代が参加しやすい事業実施に取り組む必要がある。	・ファミリー層を取り込んだ健康イベントの開催を検討し、働き盛り世代が参加しやすい事業実施に努める。
	・働き盛り世代の健康への意識づけを目的に導入した健康マイレージにより、その世代の参加者は増加しており、運動習慣定着の効果は現れてきていることから、今後はマイレージ利用者の増加に取り組む必要がある。	・健康マイレージアプリについて、健康情報やイベント情報配信を多数の利用者に行える機能の構築等による利便性の向上に取り組むことで、マイレージ利用者の増加に努める。

**今後の取り組み方針**

- ・関係機関や庁内の連携により、村民参加者の増加に取り組むことで健康づくりの機運醸成を図る。
- ・親子で気軽に参加できる健康イベントを開催し、働き盛り世代の健康意識の醸成に取り組む。
- ・健康マイレージアプリの機能向上により、健康に関する情報や健康イベント等の情報発信強化に努め、健康マイレージの利用者数の増加に努め、利用者に対する健康への意識向上に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,711	6,711	5,369	1,342	0



資金の流 れ、費 目・ 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業務については村契約規則に則り契約を行っており、妥当であったと考える。 ・予算規模は、事前に見積り等を踏まえ積算しており、妥当であったと判断する。 ・費目および用途については、完了時に検査を実施しており、事業目的に即し必要なものであったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	